

現代朝鮮語の特殊助詞 ‘ -? ’ について

著者	任 明秀
雑誌名	韓国語学年報
号	1
ページ	155-215
発行年	2005-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00001536/

現代朝鮮語の特殊助詞 ‘-도’ について

任明秀

北海道大学大学院文学研究科博士課程

1. はじめに

1. 1. 研究の対象と目的

現代朝鮮語には韓国で一般に特殊助詞¹⁾と呼ばれる助詞があり、これらはほぼ日本語の取り立て助詞に相当する副詞的かつモーダルな意味を持った助詞である。数ある特殊助詞の中で本稿では ‘-도’ について論じたい。

本稿に於いて ‘-도’ を研究対象とした理由は、次の2点にある。

まず ‘-도’ は接尾する品詞によって、その表す意味が ‘-나’ と深く関わることから、任明秀(2004)で考察した結果と関連して述べ得る点が大いにあるということである。

次に、現在韓国で特殊助詞として挙げられている数は研究者によって異なるが、共通して挙げられている10個の特殊助詞²⁾のうち、‘-도’ は ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ といった特殊助詞との意味上の関連が従来の研究によって指摘されていることから、先に述べた ‘-나’ を含めた計4つの特殊助詞からも多角的に考察し得るという点である。

本稿では、様々な品詞と結びつく ‘-도’ が表す意味と機能を解き明かし、また先行研究で特殊助詞として扱われていた ‘-도’ が果たして特殊助詞として見做されるべきか否かという marginal な部分についても論じたいと思う。

1. 2. 研究の方法

研究資料として現在韓国で出版されている新聞、文学作品、シナリオ、インターネットから例文を収集し、その数は1537例である。それらを ‘-도’ が接尾する品詞ごとに意味や機能が異なるものと、或いは他の品詞に跨って同じ機能を有するものとに分類し、その分析に妥当性があるか否かをインフォーマント³⁾にインタビューを行い検証した。

また、考察する過程で必要と思われるものに関しては随時インフォーマントに作例を依頼した。

2. 先行研究

辞書、文法書の記述は後に付録として巻末に添付した。なお、これには ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ に関する記述も含む。

以下では ‘-도’ について比較的詳細に述べられているものを扱った。

In-Seok Yang(1973)は, ‘-도’はある要素に付くことによって, その要素に姉妹項目(これは‘-도’が付く要素と価値的に等しいものであり, 沼田(1984 他)に於ける「他者」, 寺村(1991)に於ける「影」に相当する)があることを表すため, 対話の形式で‘-도’が用いられる場合, 通常‘-도’は先行文の中にある要素とは異なる一つの要素に付くことで, 対話を成立させるとし, これを‘one-element-difference principle’と呼んだ. しかし, 会話文の中に‘-도’が接尾する要素以外にも先行文とは異なる要素が他にあって, 対話する者同士に同じ semantic goal がある場合には, 対話として不自然にならないとした⁴⁾.

また‘-도’には先に述べたような一文に「N도」が一度用いられる形式と, 「N1도N2도」のように数回用いられる形式があり, 後者を‘reciprocal /to/’とした.

以上は英語の‘also’の意味を持つ場合であるが, ‘-도’には英語の‘even’の意味を表す場合もあり, これは‘-도’が接尾する要素が極端な意味を表す場合に現れるとした.

채완(1977),(1986)は, ‘-도’は副詞である‘역시, 또한’に該当する意味を表し, ‘-까지’‘-조차’‘-마저’もこの意味を共有しているとした. しかし, ‘-도’にはこの他に「強調」を表す場合があり, この場合は‘-까지’‘-조차’‘-마저’と置き換えることができないとしている.

また‘-도’は‘극단적인 의미’を持つ名詞句に付くと, ‘역시’ではなく‘극단’の意味を表すかのように見えるが, それは名詞句そのものの意味, 或いはその名詞句に対する話し手と聞き手の間の認識によるものであって, ‘-도’そのものにそのような機能があるのではないとした.

‘-도’はその数や量が少ないことを表す程度副詞や数量詞句に結びついて, それが否定文で用いられると‘극단의 부정’を表し, ‘-도’が不定代名詞の‘아무’と結びつき, 否定文で用いられると全体否定を表すとした. 後者については, ‘-나’が同様の場合に全体否定, 部分否定の別が曖昧になるのとは対照的であると述べている.

「強調」を表す場合は‘-나’と等しく‘-도’も本来の意味とは関係なく, 話し手の感情を強調する機能のみを有し, この意味で用いられるときは文中に‘-도’が複数現れてもよいとしている⁵⁾.

また‘-도’は接続の機能を有し, その際句接続は行うが, 文接続は行わないとした⁶⁾.

홍사만(2002)は, ‘-도’の中心となる意味は‘역동(also)’であり, そこから派生した意味として, ‘극단 제시’, ‘극단 부정 제시’, ‘허용’, ‘양보’, ‘강조적 첨의’を表すとした.

中心的な意味である‘역동(also)’は, 提示された事実の内容の価値と同類のもの(姉妹文, 姉妹項目)が他に存在することを言外に表すものであ

るとし, ‘역시’, ‘또한’ といった ‘-도’ と類義的な副詞や ‘마찬가지다’ のような「동일」を表す述語(用言)と共に用いられることによって, 剰余的な意味にならず, むしろ文意が明確になることから, これらは互いに「중복 공존적인 유기성」を持っているとした。

同類の事実を並列的に挙げる場合 (In-Seok Yang(1973)が ‘reciprocal /to/’ と呼んだもの) の ‘-도’ について, 「N1 도 V1 N2 도 V2」で V1=V2 の場合, 「N1 도 N2 도 V1」の構文に統合されるとし, また「N1 도 V1 N2 도 V2」に於いて, V1≠V2 であっても, V1, V2 が話者の「同一志向的意味範疇」内にある場合は V1, V2 のいずれかが削除されるか, 或いは 「N1 도 N2 도 V1 고 V2 다」のように位置変換も可能であると述べた。またこの場合の N1, N2 が反意語で, 否定文である場合は全体否定を表すともしている。

‘-도’ にはその中心的な意味である ‘역동 (also)’ から派生した ‘극단 제시’ の意味があり, この場合 ‘-까지’, ‘-조차’, ‘마저’ との置き換えが可能であるとした。この ‘역동 (also)’ を表す ‘-도’ と ‘극단 제시’ を表す ‘-도’ について, In-Seok Yang(1973)では, これらは各々の意味が同一の軸上にあり, ‘even’ (ここでの ‘극단 제시’) は軸上, 極にあるものとしているが, 홍사만(2002)では, これは話し手の心的態度によって「強調」や「過剰」を話し手が表す際に「極端提示」, つまり軸の極まで意味の領域が広がるものとした。

否定文に於ける ‘-도’ について, 「1」のように基本数の中で最小の単位である数詞や, 不定語辞と結びついた場合は「極端否定提示」の意味を持ち, 後者については普通名詞+ ‘-도’ との違いとして, 全体否定の意味を表すとしている。

また ‘-도’ には「許容」, 「讓歩」の意味を表す場合があり, この場合は ‘-라도’ との置き換えが可能であるとした。

‘-도’ は他の特殊助詞よりも感嘆や強意を強く表し, 特に同一語句の反復形(同族目的語など)や副詞, 用言語尾などと結びついたとき, 「感嘆的添意」を表すともした。

3. 本論

3. 1. 名詞(体言形も含む) + -도

3. 1. 1. 「添加」の意味を表す場合について

従来の研究では, 2. で記したように ‘-도’ の基本的な意味を, ‘-도’ が接尾することによって他のものが存在することを示す, つまり他のものが存在することを前提にした上で ‘-도’ と結び付く語が添加されるということで見解が一致している⁷⁾。

具体的に先行研究から例文⁸⁾を引用する。

채완(1977:39)より

(219)영이도 낙제를 했다.

ヨンイも落第をした。

(220)ㄱ. 영이 아닌 누군가가 낙제를 했다.

ヨンイではない誰かが落第をした。

ㄴ. 영이가 낙제를 했다.

ヨンイが落第をした。

채완(1977:39)では(220) ㄱ.は(219)の「前提」であり、(220) ㄴ.は(219)の「主張」であるとした。つまり‘영이’に‘-도’が結び付くことで、‘영이’に他の姉妹項目があることを表しているのである。

ここで日本語に於ける取り立て助詞⁹⁾について触れたいと思う。

沼田(1984 他)では自者・他者という術語を用いて、「自者とはとりたてて詞がとりたてる文中の要素であり、他者はそれに端的に対比される自者以外の要素である。」としており、これは上記(219)で言うならば、自者=‘영이’、他者は自者に対する姉妹項目ということになる。

韓国に於ける研究では、名詞+·도で表される自者に対して、他者はその自者と同類のもの((219)なら‘-도’が接尾した‘영이’に対して、例えるなら‘철수’や‘순이’といった具体的な人物名、或いは(220)のような「誰か」)があり得るという見解である。

しかし沼田(2000:160)では、自者と他者の同類性を次の3つに分けている。

・構文論的同類性

自者、他者が名詞句や副詞句¹⁰⁾の場合、主張において自者と共起する述語句を含みに於いて他者も共有し、その述語句に対して原則としてどちらも同じ文法格あるいは同じ意味の副詞句になる。また自者、他者が述語の場合は、それぞれの述語が原則として同じ連用成分をとる。

(22) a. 〈太郎〉_他が来て、〈次郎〉_自も来た。

b. 花子は〈早口でいっきに〉_他話した後で、少し間をおいてもう一度、〈丁寧にゆっくりと〉_自も話した。

・語彙論的同類性

自者、他者の述語句が同じでなく、互いに類義的な関係にあるだけの場合である。こうした場合は、語彙論的同類性に支えられて自者、他者の解釈ができる(以下の例は二つの述語に飲食行動という共通性がある)。

(23) 〈パンやハムエッグ〉_他は食べられなくても、〈牛乳〉_自ぐらい飲む。

・文脈依存的同類性

自者, 他者が述語句や連用成分を共有せず, かつ自者, 他者として捉えられるのは, 語彙論的同類性よりもさらに広い同類性, つまり文脈や社会通念に依存した類義関係による.

(24) 〈野党の反対が強い〉他上に, 〈与党内部の足並みが乱れもした〉目
ので, 法案は通らなかった.

先に述べた韓国に於ける先行研究は, 沼田(2000)でいうところの「構文論的同類性」に該当するものであるが, 収集した用例を見ると, 朝鮮語にも上記3つの同類性が認められるようである.

・構文論的同類性に該当するもの

(1) 그러나 이제 와서 생각해 보면, 실패는 석대의 남다른 통솔력
못지않게 나의 잘못도 큰 원인이 된 듯싶다. (영웅)

しかし今になって考えてみると, 失敗はソクテの並外れた統率力に劣らず私の失敗も大きな原因になったようだ.

この文では‘-도’が接尾した自者‘나의 잘못’に対して他者(姉妹項目)は‘통솔력’であり, これらは述語句である‘큰 원인이 된 듯싶다’を共有し, 述語句に対して主語という文法格に立っている. 先に見た(219)の例もこれに該当する.

・語彙論的同類性に該当するもの

(2) 어제는 친구랑 밥을 먹고 술도 마셨다. (作)

昨日は友達とご飯を食べお酒も飲んだ.

‘-도’が接尾する名詞に対する述語と他者となる名詞に対する述語は異なるが, 二つの述語は(23)同様, 語彙論的に共通性があるものである.

但し次の例文は, 広義に於いてそのような同類性を認め得るが, 厳密にはそれよりも名詞と述語の結合が固い¹⁾例である.

(3) 아침기온은 21 도에서 25 도로 오늘과 같거나 조금 높고 낮
최고기온도 26 도에서 30 도로 오늘과 같거나 조금
올라가겠습니다. 전해상이 흐리고 비가 오고 곳곳에 안개가
끼면서 천둥 번개도 치겠습니다.(K)

朝(の)気温は21度から25度で今日と同じか少し高く昼(の)
最高気温も26度から30度で今日と同じか少し高くなるでしょう。
全海上が曇り, 雨が降り, 至る所で霧がかかり雷稲光もするでしょう。

同類性について述べる前に‘-도’を含む文の動詞について説明をすると、まず‘-도’と結び付いた名詞‘번개’は‘치다’という本来「打つ」という意味を持つ動詞とのみ結び付いて「稲光がする」を表す。‘천둥」「雷」は‘울리다」「鳴る」と結び付くが、しばしば‘번개가 치고 천둥이 울린다」「稲光がして(或いは稲妻が走り)雷が鳴る」のように用いられるため、(3)では動詞が縮約され‘치다’一語で表されている。

沼田(2000)に倣って考えると、この‘-도’が接尾した名詞‘천둥 번개’が自者であるのに対し、他者は日本語訳で表されるころの「全海上」、「雨」、「霧」となるが、「雨」は‘번개’同様、動詞との結び付きが強い。‘비」「雨」は本来「来る」を意味する‘오다’と結び付いて「雨が降る」の意味になることから、(23)のように「飲食行動を表す動詞」とした括り方で動詞だけを取り出して、「天候の悪さを表す動詞」として括り、自者と他者を(23)のように、‘-도’の前に立つ名詞と、それと同じ文法格に立つ名詞とするには、名詞・動詞の結合の固さから言って、多少難があると言えよう。

・文脈依存的同類性に該当するもの

(4)내가 그때껏 다녔던 학교의 교무실은 서울에서도 손꼽는 학교답게 넓고 번들거렸고 거기 있는 선생님들도 한결같이 깔끔하고 활기에 찬 이들이었다.(영웅)

私がそれまで通った学校の教務室はソウルでも指折りの学校らしく広くつやつやし、そこにいる先生たちも一様に垢抜けていて活気に満ちた人たちだった。

ここでは‘-도’を含む文である‘선생님들도 한결같이 깔끔하다’が自者であり、これに対して‘교무실은 서울에서도 손꼽는 학교답게 넓고 번들거렸다’が他者であることは、先に見た構文論的同類性や語彙的同類性から判断されるものではなく、文脈に依存している。

韓国に於ける先行研究では、‘-도’が「添加」の意味を表す際に、述語に対して同じ文法格に立つ名詞との関係でのみ‘-도’が接尾する名詞とその姉妹項目について述べられてきたが、沼田(2000)で指摘された3つの同類性が朝鮮語に於いても適用可能であることが収集した用例を通して明らかになった。

しかし沼田(2000)では、文脈依存的同類性に於いても他者(姉妹項目)は文中に明示されており、かつ自者と parallel な関係(自者一文に対して他者一文のような)にあるものであったが、実際に収集した用例ではそのように姉妹項目が表される場合はむしろ少なかった。以下に例を挙げる。

(5)구경하던 아이들은 모든 걸 제쳐놓고 먼저 석대부터 찾았다. 마치 서울아이들이 무슨 큰일을 만났을 때 먼저 선생님부터 찾는 것과

비슷했고, 얼마 뒤 불러 온 석대가 한 일도 선생님과 크게 다르지 않았다. (영웅)

見物していた子供たちは全てのものをよけて置いて先にソクテから探した.まるでソウル(の)子供たちが何か大事に遭ったとき先に先生から探すのと似通っていて,しばらく後(に)呼ばれて来たソクテがしたことも先生と大きく違わなかった.

ここで‘-도’が接尾した名詞句‘석대가 한 일’に対する姉妹項目は文中に明示されていないが,この用例を見ると,「何か」が前提としてあって‘석대가 한 일’が添加されているという意味として捉え得る.そして姉妹項目に当たる「何か」は,この用例では「見物をしていた子供たちはソクテを先生のように思っていること」であり,それは文脈上浮かび上がってくるもので,暗示的な姉妹項目と言える.

用例を考察する過程で,名詞+·도に対する姉妹項目は明示的な場合よりも暗示的な場合が非常に多く,かつ名詞+·도가「添加」の意味として用いられていることは感じられながらも,その姉妹項目が果たして何であるのか捉えにくい場合が少なくなかった.

3. 1. 2. 「意外」の意味を表す場合について

先に名詞+·도가「添加」の意味を表す場合について述べたが,‘-도’にはこの他に「意外」の意味を表す場合があり¹²⁾,従来の研究ではその場合,‘-까지’,‘-마저’,‘-조차’¹³⁾といった他の特殊助詞との置き換えが可能か否かという観点から意味上の相違について言及されてきた.

홍사만(2002:204)に於いて,その意味を「極端提示」としている‘-도’の例を以下に引用する.

- (16)a. 말단 직원들도 해고되었다.
末端職員たちも解雇された.

この例をもって홍사만(2002:204)は「…‘末端職員もやはり～のように解雇された’という緩慢な話者の叙述態度ではなく,‘～は勿論末端職員たちまで解雇された’として感情が強化されている.」とし,‘-까지’,‘-마저’,‘-조차’との置き換えが可能であるとした.またこの際現れる意味は,‘역동」「やはり」(本稿で言うところの「添加」の意味)という‘-도’の中心的な意味からの派生であるとした.

‘-까지’,‘-마저’,‘-조차’については,各々中期朝鮮語から発達した助詞であり,‘-까지’は「極」,「限」の意味を,‘-마저’は「終」の意味を,‘-조차’は「追」,「従」の意味を,共時的にも中期朝鮮語の名残として保持しているとした¹⁴⁾.

以上の見解は홍사만(2002)独自のものではなく, 先行研究全般に於いて認められているものである. また홍사만(2002:350)ではこれらの意味は, 「添加」を表す ‘-도’ と共有する部分があるとしており, 副詞を補って共時的な意味として次のように説いている.

- ‘-도’ : -도 역시(또한)
 ~もやはり (また)
- ‘-까지’ : -도 끝으로(극단적으로)
 ~も限界として (極端的に)
- ‘-마저’ : -도 모두(남김없이)
 ~もすべて (余すことなく)
- ‘-조차’ : -도 아울러
 ~もともに

このように ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ は ‘-도’ の意味を帯びつつ, その上に話し手の心的態度を各々表す機能を有する.

先に引用した(16)は置き換え可能な例であったが, 先行研究にはこの他に置き換え不可能な例も挙がっている. しかしそれらは研究者による作例であるものなので, 本稿では ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ が名詞に接尾した実際の用例を収集し, 文脈から影響を受けるとされているこれらの特殊助詞の意味を用例から解説しつつ, 置き換えという観点も考慮し¹⁵⁾, ‘-도’ を含む4つの特殊助詞の意味について考えたい.

・名詞+·까지から収集した例文より

- (6) 카드대금을 갚을 능력이 없는 사람들이 그만큼 많다는 얘기입니다. 그러나 이렇게 카드를 발급받기 어려운 사람들에게 카드발급을 해주고 이 과정에서 기업체의 재직증명서까지 위조한 불법 카드발급업자 15 명이 오늘 경찰에 무더기로 적발되었습니다. (K)

カード代金を返す能力がない人たちがそれだけ多いという話です. しかしこのようにカードを発給されるの(が)難しい人たちにカード発給をしてあげてこの過程で企業体の在職証明書まで偽造した不法カード発給業者15名が今日警察に一斉に摘発されました.

- (7) 김대통령은 31 일 민자당 당직자들과 가진 조찬에서 "비자금이란 부정축재로 생각하며 부정축재는 범죄행위"라고 말한데 대해 청와대 관계자들은 "전직대통령이라는 신분을 일절 고려하지 않는 것은 물론 부정축재를 한 범법자로서 적법한 절차에 따라 구속은 물론 실형선고까지 갈 수도 있다"는 의미로까지 확대 해석하고 있다.(K)

キム大統領は31日民社党党職者たちとした朝食(会)で“秘資金ではない不正蓄財として考え不正蓄財は犯罪行為”と言ったことに対して青瓦台関係者たちは“前職大統領という身分を一切考慮しないのは勿論不正蓄財をした犯罪人として適法な手順に従って拘束は勿論実刑宣告までいくこともありえる”という意味としてまで拡大解釈している。

インフォーマントによると上記2つの例文では, ‘-조차’ 以外の特殊助詞である ‘-도’, ‘-마저’ とは置き換え可能ということである。以下インフォーマントによるインタビューから得られた結果を元に筆者の分析を記す。

‘-까지’ が名詞に接尾した(6)は, 不法カード発給業者がカードを発給するために様々な手段を講じる可能性がある中で, 在職証明書は人が常識として考え得るものとして可能性が少ないという意味を ‘-까지’ が付くことによって表しており, この文で ‘-도’ が接尾した場合は, 様々な手段の上に在職証明書が添加され, また文脈上この名詞が, やはり常識内の手法ではないということを表しているため, 「意外」の意味を表している。但し同じ「在職証明書」という名詞であっても文脈によっては単なる「添加」の意味になるものである。‘-마저’ については, 不法にカードを発給するための, あらゆる手段の中で最終的な手段という意味を表している。

‘-조차’ がここで用いられないのは, 「在職証明書」に ‘-조차’ が結び付くと, 「在職証明書」が「大したことではないもの」という意味になり, 「在職証明書」以上に常識では考えにくいものが存在することを表すため, 文脈と意味的な衝突を起こすからである。

(7)も(6)同様, 実刑宣告が文脈上犯罪人である元大統領を罰する上で, ‘-까지’ は拘束, 罰金などの中で可能性の少ないものとして, ‘-도’ は「添加」でありながらも文脈上の「意外さ」を, ‘-마저’ は元大統領を罰するのに, 実刑宣告が致命的なものであるということを表している。‘-까지’ と ‘-마저’ は互いに話し手や社会的常識といった面からは, その枠から出るという意外さを表すが, ‘-마저’ が最終項目を表すのに対し, ここで「実刑宣告」という名詞に接尾した ‘-까지’ はそれ以上に厳しい処罰(例えば死刑など), があり得ることも示唆している。

なお, この文に於いても ‘-조차’ は名詞と結び付くことで, その名詞を軽んじるような意味を表すため, その意味と文脈がかみ合わず, 用いることができない。

・名詞+ -마저から収集した例文より

(8) 왼쪽 눈에서 흘러넘치는 피로 그녀의 얼굴은 온통 피투성이가 되어 있었다 . 그녀는 피할 수 없음을 깨달았다 . 그와 함께

상대방 남자에 대한 확신이 섰다 . 그것은 그가 일 분후에는
틀림없이 그녀의 오른쪽 눈마저 찌를 것이라는 확신이었다 . "
말하겠어요 ! 제발 찌르지 말아요 !" 그것은 호소라기보다는
비참한 울부짖음이었다 .(K)

左目から流れ出る血で彼女の顔はすっかり血まみれになっていた。
彼女は避けられないことを悟った。それと共に相手の男に対する確
信が持てた。それは彼が一分後には間違いなく彼女の右目まで切る
だろうという確信だった。「話します！どうか切らないで下さい！」
それは訴えというよりは悲惨な泣き叫びであった。

この文で ‘-마저’ は左目を切られ、二つしかない目のうち最後の目である
「右目まで」ということを表しており、つまり最終的な姉妹項目を表して
いる。ここでは残った目が右目しかない状況で「まさかそれまで切りはしな
いだろう」という意味を表している。

この例文は他の3つの特殊助詞全てと置き換え可能である。

‘-도’ が接尾すると切られた左目に加えて「右目も」という「添加」の
意味であり、この文で「意外」の意味に派生するか否か、インフォーマント
によって意見が分かれた。‘-까지’ に置き換えた場合は話し手が残された右
目を切られることに対して、「まさかそれまで切りはしないだろう」という
可能性の低さを表す一方で、切られることによって右目よりも致命的な傷に
なりかねない「胸」など他の身体部位があることも表している。‘-조차’ の
場合は左目を切りつけた「彼」にとって、「右目」を切ることは容易なこと
として十分あり得るという意味を表している。

채완(1977:48)では、次の例をもって ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ の置き
換えについて述べている。

(270) 올해안으로 막내딸마저 시집 보내야지.

今年中に末娘までお嫁(に)出さないと.

(270)' 올해안으로 막내딸[*까지, *조차] 시집 보내야지.

これについて채완(1977:48)は「(270)のように話者の意志と関係なく既に
最後のものとして与えられた場合の ‘마저’ は ‘까지’ や ‘조차’ に置き換
えると不自然になるようだ」としているが、インフォーマントによると
‘까지’ は不自然な文ではなく、その際の意味を(270)の ‘마저’ が「末娘」
だけ残って、他はお嫁に行ったことを表しているのに対し、(270)'の ‘까지’
は何番目の娘までお嫁に出したのかはわからないが、「末娘」までお嫁に出
すことが目標というように感じられるとのことであった。‘까지’ には到達
格としての働きもあるので、この例文は特殊助詞、格助詞の区別がつきにく

い。日本語の取り立て助詞「-まで」がそうであるように¹⁶⁾、朝鮮語の「-까지」も用例によっては格助詞なのか特殊助詞なのか曖昧な例も少なくなかった。

‘조차’が非文になるのは、(6)~(8)の解釈にもあったように、名詞に‘조차’が接尾すると、話し手がその名詞に対して「容易なこと」或いは「最低限のこと」として見做しているという意味が現れ、かつそこにはその名詞以上に「容易ではないこと」があるという意味が含まれるからである。ここでは「末娘」の上に嫁がせるべき娘が何人いるかは文脈上定かではないが、いずれにしろ最後の娘まで出すことは容易なことではないことと、‘조차’が接尾する名詞が「末娘」であるゆえにその下に嫁がせるべき者がおらず、そういった点で(270)’で‘조차’を用いることは不可能である。以下参考までに、インフォーマントが作例した例文を挙げる。

(9) 딸을 시집 보내는데 가난해서 반지조차 해 줄 수 없다. (作)

娘を嫁(に)やるのに貧しくて指輪さえしてあげられない。

娘を嫁がせる上で「指輪」を準備することが親にとって本来一番容易なこと、つまり最低限のことであるのは常識上無理のない解釈であると思われる。(9)ではそのような文脈と‘조차’は意味的な衝突を起こさず、非文にならない。

・名詞+조차から収集した例文より

(10) 그러다 보면 우리 대다수가 가장 중요하다고 동의한 일들 즉 배우자와 아이들 또는 친구들과 보낼 시간, 혼자만의 조용한 시간, 자신의 관심사에 쏟을 시간은 아예 가질 생각조차 할 수 없게 된다.(K)

そうして見ると我々(の)大多数が最も重要だと同意したこと、即ち配偶者と子供たち或いは友人たちと過ごす時間、一人だけの静かな時間、自分の関心事に当てる時間ははなからして当然の考えすらできなくなる。

ここでは話し手が望ましいと思っている様々な時間を実際に過ごすことはもとより、それよりも容易いことである「考えること」もできないという意味を‘조차’が接尾することによって表している。

これを‘-마저’に置き換えると、「大多数が最も重要だと同意したこと」に関連する項目が、文中にある様々な時間を過ごすという行動であり、「考えること」は「大多数が最も重要だと同意したこと」に関連するものの中で、最終的な姉妹項目、つまり「考えること」ができないのなら、他のことは当然できないということを表す。

この文で名詞に‘-도’が接尾すると、様々な時間に「考えること」が添

加されたものとして表される。

‘-까지’ はここでは非文になる。この文では「大多数が最も重要だと同意したこと」に関連する項目は、様々な時間を過ごすことと、それを考えることとであり、これらを比べた場合、前者よりも後者の方が実現しやすいものであるにも拘わらず、‘-까지’ が接尾すると、その名詞の実現の可能性が低いことを表してしまうため、意味的な衝突と起こし、非文になってしまう。

また先行研究では、‘-까지’ は他の ‘-마저’ や ‘-조차’ に比べて否定文では用いられにくい傾向にあるとされている¹⁷⁾。

なお、朝鮮語の可能表現には ‘하다’ 「する」という動詞の連体形である ‘할’ + ‘수’ 「手段」という名詞、それに ‘있다’ 「ある」存在詞のひとまとまりで、直訳すると「～する手段がある」→「～できる」というように表されるものがある。

(10)の ‘생각조차 할 수 없게 된다’ は ‘생각’ 「考え」という名詞に特殊助詞 ‘-조차’ が付き、その後は ‘하다’ 「する」という動詞の連体形である ‘할’ + ‘수’ 「手段」という名詞、‘없다’ 「ない」+ 接続形語尾 ‘-게’ に補助用言 ‘되다’ 「なる」が結び付き、それ全体で「考えすらできなくなる」を表している。(10)では名詞の直後に特殊助詞 ‘-조차’ が接尾したが、次の例のように ‘-조차’ は名詞 ‘수’ の後ろにも来得る。

(11) 이 무슨 어리석고도 광적인 짓인가! 하지만 니나가 없는 나의
생은 생각할 수조차 없다.(K)

この何という愚かで狂的なことであるか！しかしニナがいない私の人生は考えることすらできない。

この文では ‘-마저’ と置き換えることはできない。それは今まで見てきたような意味上の問題ではなく、インフォーマントによると、‘-마저’ がこのような可能表現で用いられる際に ‘수’ という名詞と存在詞の間に入ることはできないからであるという。

(12) *하지만 니나가 없는 나의 생은 생각할 수마저 없다.

(13) 하지만 니나가 없는 나의 생은 생각마저 할 수 없다.

しかしニナがいない私の人生は考えさえできない。

但しこれは ‘생각하다’ 「考える」のような ‘생각’ 「考え」という名詞と ‘-하다’ 「～する」という分離接尾辞からなる分離用言¹⁸⁾ の場合にのみ、述べうることである。

‘-조차’ が ‘-할 수 있다/없다’ という可能表現において、挿入される位置が自由であったのに対し、‘-마저’ は上記のような制限を持つのである。

以上、‘-도’ が ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ といった他の特殊助詞と置き

換え可能な場合について述べた。3. 1. 1. に於ける ‘-도’ は先に挙げた3つの特殊助詞と基本的に置き換えがきかず、その意味は「添加」を表すものであったが、収集した用例を分析する過程で ‘-도’ は「意外」の意味を表す場合があり、しかしそれは「添加」の意味を軸にしたものであることが明らかになった。

‘-도’ が「添加」の意味を表すのか、「意外」の意味を表すのかは、結び付く名詞に対する話し手や聞き手の認識、或いは社会的な常識や通念というものに大きく左右されるので¹⁹⁾、用例には二つの意味のうち、どちらとも捉え得るものもあり、明確に区分されない場合もある。

「意外」を表す ‘-도’ に関連して ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ についても考察を行ったが、これらの特殊助詞も結び付く名詞に対して、先に述べたように話し手や聞き手がどのように認識しているのか、またその名詞が社会的な常識内でどのように位置づけられているのかといったことと、文脈が要求するそれらの名詞の意味的な位置づけが一致しない場合に非文になると言える。

なお、インフォーマントの一致した見解では、‘-도’ が「意外」の意味を表す場合、他の3つの特殊助詞が接尾した場合と比較して、話し手はより客観的に事実を述べようとしてように感じられるとのことであったが、それは客観的事実である「添加」の意味の延長線上として「意外」の意味を捉えているからであると考える。

3. 2. 数詞+·도²⁰⁾

従来の研究では数詞に ‘-도’ が接尾する場合について、「1」のように自然数で最も小さい数との結び付きが、否定文に於いて「全体否定」を表すということのみ言及されてきた。「1」のような所謂「小さい数」については後の3. 4. で述べることにし、ここでは従来言及されてこなかった「1」以上の数との結び付きについて述べる。

3. 2. 1. 肯定文に於ける数詞+·도

以下に例文を挙げる。

- (14) 「서울 무슨 국민학교랬지? 얼마나 커? 물론 우리 학교와는 델 수 없을 만큼 좋겠지? 먼저 그렇게 물어 주어 3학년은 20반도 넘고 60년 가까운 전통이 있으며 그해 입시에서는 경기중학교만도 90명이나 들어간 서울의 학교를 자랑할 수 있게 해주었고, 「공부는 어땠어? 거기서 몇 등이나 했지? 다른 건 뭘 잘해?」 그렇게 물어줌으로써 내가 4학년 때 국어과목에서 우수상을 탄 것이며(그때 이미 그 학교는 과목별로 우등상을 주었다) 또한 그 전해 가을 경복궁에서 열린 어린이 미술대회에서

특선한 걸 자연스럽게 자랑할 수 있도록 해주었다. (영웅)
 「ソウル (の) 何の国民学校だって?どれだけ大きいの?勿論うちの学校とは比べられないぐらいいいだろ?」先にそのように尋ねてくれて3年は20クラスも超え60年近い伝統がありその年 (の) 入試では京畿中学校だけでも90名も入ったソウルの学校を自慢できるようにしてくれて、「勉強はどうだった?そこで何等ぐらいとった?他の事は何が得意なの?」そのように聞いてくれることで私が4年生のときに国語 (の) 科目で優秀賞を貰ったことや(そのとき既にその学校は科目別に優秀賞をくれた)またその前年 (の) 秋景福宮で開かれた子供美術大会で特選(を)貰ったのを自慢できるようにしてくれた.

この例文で ‘-도’ が付くことによって, 話し手はその前にある ‘20 반’ を「そんなにも多く」というように, その数の多さを強調している.

数詞に特殊助詞が接尾することで, このような意味を表すものとして, 任明秀(2004)で考察した ‘-나’ があり, それは次のように用いられる.

(15)당신이 지명한 어느 호텔 커피숍으로 가기 위해, 택시 운전사는 차에서 두 번이나 내려 사람들에게 장소를 물었습니다. (겨울)
 あなたが指名したあるホテル(の) コーヒーショップに行くためにタクシ-の運転手は車から2回も降りて人々に場所を尋ねました.

(16)그는 여느때나 마찬가지로 점퍼차림으로 왔다. 낯선 향수냄새를 풍겼다. 그가 나타날 때까지 지영은 창가에 앉아 한 시간이나 기다렸다.(K)

彼はいつもと同じようにジャンパー (の) 身なりで来た. 慣れない香水 (の) 香りを漂わせた. 彼が現れるときまでチヨンは窓辺に座って一時間も待った.

任明秀(2004)でも述べたが, 先行研究や辞書などの記述に於いても, ‘-나’ に(15), (16)のような数詞の多さを強調する機能があることは既に明らかにされており, またこのような意味を表す用例の数をみても, ‘-나’ が非常に多いのに対して ‘-도’ では収集した用例のうち(14)の一例だけであったことから, 数詞との結びつきでその数の多さを表す特殊助詞としては, ‘-나’ が典型的なものと言って差し支えないと言えるだろう. また(15), (16)に於いて ‘-나’ の代わりに ‘-도’ を用いることはできない.

以下にインフォーマントに行ったテストを示すが, ここでもやはり ‘-도’ を用いると非文となり, ‘-나’ を用いるべきとのことであった.

(17)a. 나는 떡을 5개나 받았다. (作)
 私はお餅を5個も貰った.

b.* 나는 떡을 5개도 받았다. (作)

(18)a. 거기에 차가 5대나 있다. (作)

そこに車が5台もある.

b. * 거기에 차가 5대도 있다. (作)

しかし(14)では数詞+·도가その数の多さを強調する意味として用いられており、かつここで‘-나’を用いると非文になるとのことであった。

(14)~(18)の例文についてインフォーマントとのインタビューの過程で、動詞‘넘다’「超える」に特徴的かもしれないとのことを聞き、以下まず(19)で‘넘다’以外の動詞を、その他では‘넘다’を含む文で、‘·도’と‘-나’の分布を調べた。

(19) a. 그 언니는 책을 10권이나 읽었어. (作)

あのお姉さんは本を10冊も読んだ。

b.* 그 언니는 책을 10권도 읽었어. (作)

(20) a.* 철수네 학교는 20반이나 넘어. (作)

b. 철수네 학교는 20반도 넘어. (作)

チョルスの学校は20クラスも超える。

(21) a.* 그 언니는 읽은 책이 10권이나 넘어. (作)

b. 그 언니는 읽은 책이 10권도 넘어. (作)

あのお姉さんは読んだ本が10冊も超える。

肯定文に於いて動詞‘넘다’と、話し手が数の多さを強調する場合の‘-나’が一文中に用いられると、意味の上で冗長になり、それらを含む文は非文になるのかもしれない。次の例文(22)では‘·도’を含む b.は非文だが、c.のように‘더’「もっと、更に」というある状態を超えることを表す副詞を挿入する、或いは(23)のように‘지나다’「過ぎる」などの動詞を用いると、‘·도’を含む文は自然な文になる。

(22) a. 그 언니는 읽은 책이 10권이나 돼. (作)

あのお姉さんは読んだ本が10冊にもなる。

b.* 그 언니는 읽은 책이 10권도 돼. (作)

c. 그 언니는 읽은 책이 10권도 더 돼. (作)

あのお姉さんは読んだ本が10冊以上(に)なる。

(23) 그녀를 안 지 벌써 20년도 지났다. (作)

彼女を知ってから既に20年も経った。

(22), (23)の例から, 数詞との結びつきで‘-도’がその数の多さを強調する条件として, 文中に‘넘다’のような明らかにある地点をオーバーすることを表す動詞か, 或いは副詞が必須となる可能性が伺える。

3. 2. 2. 否定文に於ける数詞+-도

日本語の取り立て助詞の「-も」が数詞と結びつき, その文が否定文である場合について寺村(1991:78)では次のような例を挙げている。

(169) 50人も来なかった。

(a)来なかった人の数が予想より(はるかに)多く50人に達した。

(b)それ(50人)ほど多くは来なかった, せいぜい30人か40人ぐらいだった。

寺村(1991:78)は, (a), (b)をそれぞれ(169)が表す「コト」, 即ち「50人が来なかった」に対して「影」²¹⁾という術語を用いて説明しており, (169)は(a), (b)二通りの解釈が可能であるとしている。

以下に数詞+-도가否定文で用いられる例を挙げる。

(24)그러나 국내 특히 지방 네트워크는 대단히 약하다. 통산성의 지방 출장 기관으로는 8개 도시에 지방 통산국이 있지만 거기에 근무하는 사람 수는 모두 2,384명으로 한 개 국에 평균 300명도 되지 않는다. 그에 대해서 다른 주요 관청의 지방 조직의 직원 수는 대단히 많다. (K)

しかし国内特に地方(の)ネットワークはとても弱い。通産省の地方出張機関としては8つ(の)都市に地方(の)通産局があるがそこに勤務する人(の)数はみな2384名で一つ(の)局に平均300名にもならない。それに対して他の主要官庁の地方組織の職員数はとても多い。

ここで‘300명도’「300名にも」は, (169)の(b)に相当する。つまり「300名に満たない数」を表している。以下の例で示すように朝鮮語では(169)の(a), (b)の「影」をそれぞれ‘-나’と‘-도’で表し分けている。

(25) 50명이나 안 왔다. (作)

50人も / 来なかった。→ (来なかった人数が50人)

(26) 50명도 안 왔다. (作)

50人も / 来なかった。→ (50人に満たない人数が来た)

(25)は(169)の寺村(1991)に於ける(a)の意味、つまり「50人が来なかった」を表し, (26)は(b)の「50人に満たない人数が来た」ことを表してい

る。

また3. 2. 1. では肯定文に於いて‘넘다’という動詞と特殊助詞‘-나’とは共に用いることができなかつたが、それは否定文に於いても同様である。

(27) a.*철수네 학교는 20 반이나 안 넘었어. (作)

b. 철수네 학교는 20 반도 안 넘었어. (作)

チョルスの学校は20クラスも超えなかつた。

(28)a.*그 학생은 스물이나 안 넘었어. (作)

b. 그 학생은 스물도 안 넘었어. (作)

その学生は20も過ぎていない。

(27)b.は「18, 19クラスある」という意味を、また(28)b.では「18, 19歳ぐらいだ」という意味を表し、‘-도’が接尾する数詞に満たない数を示している。

なお(24)~(26)の例がそうであったように、‘-도’は肯定文で‘넘다’以外の動詞と用いることができなかつたが、否定文に於いてはそれが可能である。

(29)a.그 언니는 책을 20 권이나 안 읽었어. (作)

あのお姉さんは本を20冊も読まなかつた。

b. 그 언니는 책을 20 권도 안 읽었어. (作)

あのお姉さんは本を20冊も読まなかつた。

(29)a.は例えば本を50冊読まなければならないところ、30冊読み、20冊もの大量な本を読んでいないということを表し、一方(29)b.は18, 19冊といった20冊未満の本を読んだということを表している。

3. 2. 3. 疑問文に於ける数詞+·도

任明秀(2004)では以下の例をもってテストを行い、そこから‘-나’が数詞に接尾し、かつ動詞が疑問形である場合、‘-나’は同一の文であっても「強調」と「概数性」の二つの意味を表すとした。

(30)그때 그 학생은 겨우 스물이나 넘었을까, 아무튼 그런 일에 대해 제대로 알 나이가 못 됐어요. (아들)

その時その学生はやっと20ぐらい過ぎたのだろうか、いずれにしてもそんなことについてきちんと知る歳にはなっていなかつたのです。

この例文では‘-나’は概数を表している。テストではこの例文の動詞‘넘다’「超える」の語尾の様々な形と、(30)が独り言を表す文であることから、独り言の形式と、話し手が聞き手に対して問う疑問文の形をもって分

析を行った。その結果同一の文であっても文脈に応じて次のような環境で二通りの意味が現れうるとした。

・強調を表す場合

話し手が ‘-나’ と結びついた数について確信を持って述べる、或いは聞き手に対し問う。

・概数性を表す場合

話し手が ‘-나’ と結びついた数について確信が持てない、或いは聞き手に対して数が少ないという主観のもとに問うという反語的なもの。

先に 3. 2. 1., 3. 2. 2. に於いて、動詞が ‘넘다’ である場合 ‘-나’ を用いることはできなかったが、上記のように疑問形では動詞が ‘넘다’ であっても ‘-나’ を用いることは可能である。

ここで 3. 2. 1. で行ったテストを疑問形に変えて以下に示す。

(31) a. 너는 떡을 5개나 받았어? (作)

君はお餅を 5個も 貰ったの?

*b. 너는 떡을 5개도 받았어? (作)

(32) a. 거기에 차가 5대나 있어? (作)

そこに車が 5台もあるの?

*b. 거기에 차가 5대도 있어? (作)

(31), (32)に於いて, ‘-도’ を用いることはできない。また ‘-나’ を含む a. はそれぞれ「強調」と「概数」の両方を表しうる。つまり(31)で言うと、話し手が ‘-나’ が接尾した数に対して確信を持っている場合, ‘-나’ は「そんなにも多く」を表しており、話し手がその数に確信が持てない場合は「多くても 5 個, 5 個も貰っていない」という概数を表しているのである。なお、これらの違いは発話の際、イントネーションの違いとなって現れる。

肯定文で ‘-도’ は動詞 ‘넘다’ のように、ある状態を超えることを表す動詞と共に用いられた場合、非文にならないとのことであった。以下に ‘넘다’ の疑問形で行ったテストの結果を示す。

(33) a. 철수네 학교는 20반이나 넘어? (作)

チョルスの学校は 20クラスも 超えるの?

b. 철수네 학교는 20반도 넘어? (作)

チョルスの学校は 20クラスも 超えるの?

疑問文に於いても肯定文の場合と同様に ‘-도’ は動詞 ‘넘다’ と用いられる際には非文にならず「強調」、つまり話し手がその数の多さを述べることを表し、一方肯定文に於いて ‘넘다’ と用いることが不可能であった ‘-나’

は、否定文同様疑問文でも用いることができる。またそれが表す意味は、先に述べた(31), (32)の場合と等しく「強調」と「概数」の二通りが現われ得る。

以上、肯定文、否定文、疑問文に現れる数詞に接尾する‘-도’と‘-ㄴ’について述べたが、これらをまとめると次の表のようになる。

特殊 助詞 文の形式	·ㄴ	·도
肯定文	(ある状態を超えることを表す動詞以外の動詞と用いる) 「強調」	(ある状態を超えることを表す動詞や副詞を含む) 「強調」
否定文	(ある状態を超えることを表す動詞以外の動詞と用いる) 「強調」	(動詞の制約無し) 「概数」
疑問文	(文脈に応じて) 「強調」 「概数」	(ある状態を超えることを表す動詞や副詞を含む) 「強調」

これまで先行研究に於いて、数詞に接尾する‘-도’に関する記述は自然数で最も小さい数である「1」のような数詞が否定文中で用いられた場合の考察が殆どであり、一部辞書に於いて小さい数以外の数詞との結びつきについて述べてはいるが(巻末付録参照)、それも肯定文に於けるもののみを扱っているに過ぎない。

用例に当たると実際には小さい数以外との結びつきに限らず、肯定・否定・疑問文で意味が異なり、また数詞と‘-ㄴ’との結びつきで得られた結果と合わせて考えると興味深い点があった。

なお、‘-도’が肯定文で用いられる際、‘넘다’のようにある状態を超えることを明確に示す動詞や副詞が必須である可能性を示唆したが、巻末の付録にある辞書や文法書等の記述に於いても、そこで挙げられている用例はすべて動詞‘넘다’を含む文である。

これについて、果たして先に述べた動詞や副詞が特徴的であるか否かは今後更に検討する余地があるが、2. でまとめた先行研究のうち、名詞に関する考察についてはあるが、홍사만(2002)が述べた「… ‘-도’ と類義的な副詞や ‘마찬가지다’ のような「同一」を表す述語(用言)と共に用いられることによって、剰余的な意味にならず、むしろ文意が明確になることから、

これらは互いに「중복 공존적인 유기성」を持っている。」という見解や、今回先行研究のまとめで記さなかったが、‘-도’と‘-까지’の置き換えの問題に関する채완(1986)の記述、「… ‘-까지’から‘-도’の置き換えはきくが、‘-도’から‘-까지’への置き換えは必ずできるとは限らない。これは‘-도’が意味の面で主観的ではなく、中立的であるからである。」を見る限りに於いても、‘-나’やその他の特殊助詞に比べて‘-도’はその意味がそれ自体では明確に現れにくいのではないかと推察される。

3. 3. 副詞+·도²²⁾

先行研究では副詞に結び付く‘-도’の意味を「強調的添意」などとし、副詞を強調する機能があるとした。それは次のようなものである。

(34) 나는 아시아 스타일의 우리 외모가 그들에게 위협적으로 느껴질지도 모른다고 생각해 지방 기자인 백인 한 사람을 고용해 우리 대신 취재해 달라고 부탁했다. 하지만 그것조차 성과가 없었다. 아마도 그 백인 기자는 자신의 '동족'인 백인들의 구미에 맞지 않는 일에 성의껏 매달리고 싶지 않았을 것이다.(K)

私はアジア(の)スタイルの私たち(の)外見が彼らにとって威圧的に感じられるかもしれないと思い、地方記者(の)白人一人を雇用し、我々(の)代わりに取材してくれと頼んだ。しかしそれすら成果がなかった。多分その白人記者は自身の‘同族’である白人たちの好みに合わないことに誠意を尽くしてしがみつきたくなかったのだろう。

(35) 그녀는 신중하게 이혼을 생각해 본 적도 있었지만 자신에 대한 모든 통제력과 침착성을 위한 어떠한 노력도 지금까지 아무런 결실을 보지 못했다. 여성들은 어쩔 수 없이, 화를 가라앉히며 양보하게 되는 이런 상황을 이미 너무도 잘 알고 있다.(K)

彼女は慎重に離婚を考えてみたこともあるが、自分に対する全ての統制力と沈着性のためのどんな努力も今までいかなる結果を出せなかった。女性たちは仕方なく、怒りを鎮め譲歩するようになるこのような状況を既にあまりにもよく知っていた。

(36) 어머니 : 순자야. 너 내일 학교에 가기가 싫은 모양이구나.
그렇지?

순자 : 학교에서는 재미있는 일이 아무것도 없어요.

어머니 : 좀 진저리가 난단 말이지?

순자 : 그래요. 똥똥하고 절구통인 얼간이 같은 할망구.
선생님을 지켜보는 것 이외에는 아무것도 할 것이 없어요.

- 어머니 : 그래서 선생님이 하시는 일이 몹시 못마땅한 모양이지?(K)
- 母 : 슨じゃ. あなた明日学校に行くのが嫌なようだね. そうでしょう?
- 스んじゃ : 学校では楽しいことが何もないです.
- 母 : 少しうんざりするんでしょう?
- 스んじゃ : そうです. 太っていて間抜けな感じのばばあ. 先生を見守ること以外には何もすることがないです.
- 母 : それで先生がなさることがとても理不尽な感じでしょう?

これら(34)~(36)の例に於いて, ‘-도’ を省略しても非文にはならない. 先行研究では, これら ‘아마’ 「多分」, ‘너무’ 「とても」, ‘몹시’ 「とても」は, ‘-도’ が接尾することによって, 「強調」の意味, つまり副詞の意味が拡大されるとされてきた.

任明秀(2004)で考察した副詞+‘-나’にも類似した機能があり, やはりこれも先行研究では「強調」の意味を表すとされていた. しかしインフォーマントにインタビューする過程で, 当初は ‘-나’ が接尾した場合の方が接尾しない場合よりも, 副詞が表す程度の甚だしさを表すとしていたものの, 実際にはその意味的差異は非常に微妙であり, また文によって ‘-나’ が接尾しないと不自然になるものとならないものがあるといった指摘を受け, 任明秀(2004)では以下のような仮定を行った.

- i) ‘-나’ そのものに副詞の意味を拡大する機能はなく, 単に副詞に ‘-나’ という形態素が添加されたことによって, ‘-나’ が「強調」を表すかのように思えるのではないか.
- ii) 同一の副詞であっても文によって ‘-나’ の省略が不自然に感じる場合があるのは, 文を発したときの前後の続き具合や文全体の調子, いわゆる韻律のようなものによるのではないか.

‘-나’ に関しては上記2点を考慮しながら, 意味の拡大や省略について収集した例文を見せたところ, インフォーマントの同意を得られた.

今回副詞と結び付く ‘-도’ に関して, ‘-나’ で述べた ii) の省略の問題についてインフォーマント間で意見の相違があったため, これについては今回明確に述べることができないが, 副詞に ‘-도’ が接尾する場合としない場合とを比べたところ, ‘-나’ で述べた i), つまり ‘-도’ そのものが「強調」を表しているというよりは, ‘-도’ という形態素の添加によって「強調」の意味を表しているのかもしれないという点で同意を得ることができた.

但し次に挙げるものは, 同じ副詞+‘-도’であっても先に述べたような, 副詞に ‘-도’ が接尾することによって, その副詞の程度を拡大する「強調」

という意味として括りきれないものである。

(37)a. 빨리 왔구나. (作)

b. 빨리도 왔구나. (作)

早く来たな.

a., b.の文は共に話し手が聞き手に「来るのが早かった」ということを表しているが, a.は話し手がそれを客観的事実として捉えているのに対し, b.は a.と同じ客観的事実を表す場合と, それ以外に「そんなに早く来なくてもいいのに」, つまり「早く来る必要がないところに早く来てしまった」という話し手の皮肉めいた心的態度を表し得る。

このような用例は, 実際に収集した中には無く, インタビューの過程で得られたものであるため, こういった意味を表す場合の‘-도’が他にどのような副詞と結び付くのか, またその際の副詞や動詞の特徴といった環境について今回は明らかにし得ないが, 従来の研究で述べられた「強調」という意味の他にも現われる意味があるということを記しておく。

3. 4. 否定文に於ける‘-도’について

3. 4. 1. 疑問詞・不定詞+·도²³⁾

以下に例を挙げる。

(38) 경쟁이 어떻게 전개될지는 모르지만, 일본의 자동차업체가 설비를 줄여야 하는 경우가 생길지도 모른다. 또 나중에는 한국의 자동차업체가 일본의 대표적인 자동차업체 도요타를 인수하게 될지 누가 아는가. ‘도요타’ 상표가 유명하니까 그대로 살리면서 ‘무궁화 도요타’가 될지 어떨지, 앞으로 몇십 년 뒤의 일은 아무도 모른다. (한국)

競争がどのように展開されるかはわからないが, 日本の自動車業界が設備を減らさなければならない場合が生じるかもしれない。また後には韓国の自動車企業が日本の代表的な自動車企業体トヨタを引き受けるようになるか誰がわかるのか, ‘トヨタ’商標が有名だからそのまま生かしながら‘むくげトヨタ’になるかどうか, これから何十年後のことは誰も知らない。

(39) ‘내가 먼저’ 나서서 말을 하고, 내가 먼저 나서서 행동하는 용기를 가지면 되는 일들이다. 누구도 한국 사람들의 교육수준과 의식이 그 정도에 미치지 못한다고는 생각하지 않을 것이다. (한국)

‘私が先に’出て話をし, 私が先に出て行動する勇氣を持てばできることだ. 誰も韓国人たちの教育水準と意識がその程度に及んでいない

とは思わないだろう.

- (40) 중산층을 대변하는 정책을 추진하면서도 기득권층의 비판도 피하고 싶어하는, 클린턴의 모든 유권자를 즐겁게 하려는 심리상태가 결국 어느 쪽도 만족시키지 못하는 결과를 낳고 있다는 분석이다.(일보)

中産層を代弁する政策を推進しながらも既得権層の批判も避けたがる, クリントンの全ての有権者を楽しませようとする心理状態が結局 どちらの方も満足させられない結果を生んでいるという分析だ.

- (41) 비록 상징적이라 할지라도 종교적인 광신에다 민주주의적 걱정까지 겹친 무리의 우두머리가 되는 것은 위험스러울 뿐만 아니라 그가 힘들여 찾고 있는 것과는 아무런 관련도 없는 일이었다.(사람)

仮に象徴的だとしても宗教的な狂信の上に民主主義的(な)激情まで重なった群れのかしらになるのは危険なだけではなく彼が力を入れて探しているものとは何の関連もないことだった.

(37)~(41)의 예에서는,それぞれ疑問詞・不定詞+·도가否定文中で用いられ, 全体否定を表しており, 「誰もいない」, 「何もない」などのように, 日本語の「·も」にも類似した機能がある.

但し日本語の「·も」は, 疑問数詞との結び付きに於いて, 次のような意味を表す(以下寺村(1991:82)より引用する).

(188) 何年も払わなかった.

(190) (そんなに) 何人もだまさなかった. (ひとりだけ)

寺村(1991)では, 同じ X [疑問数量] モ+P [否定] という文であっても (188)のように「何々しない(しなかった)」こと(期間)の長さを強調する意味になる場合と, (190)のように「あなたが言う(思う)ほどそんなに多くは何々しない」の意味なる場合があるとしている.

これに対して朝鮮語では 3. 2. で考察したように, これらを「·도」と「·나」で表し分ける.

- (42) 그의 모친 양부흥(揚富興)이 삼성산 신령의 몽시(蒙示)를 받고 태어난 이선평은 모친의 뱃속에서 나와서도 몇시간이나 울지도 않고 죽은 듯이 움직이지도 않다가 새벽녘 첫닭이 울자 비로소 울기 시작했다고 해서 그의 도호를 신계(晨鷄)라고 하여 지금까지 사용하고 있다.(K)

彼の母, 親揚富興がサムソン山神靈の蒙示を受け生まれたイソンピ

ョンは、母親のお腹の中から出てきても何時間も泣きもせず死んだように動きもしないでいるうちに明け方一番鶏が鳴いてようやく泣き始めたとして彼の道号を晨鶏とし、今まで使っている。

- (43) "특별한 일은 아닙니다. 전에 여기서 일했던 페트릭 씨 아시죠?"
그제야 사장은 감이 잡힌 듯 다리를 꼬며 콧수염을 쓰다듬었다. "제가 페트릭씨의 뒤를 이어 이곳에 왔습니다. 하지만 같이 이야기한 건 몇 시간도 안될 겁니다.(K)

「特別なことではないです.前にここで働いていたパトリックさんご存知ですよ?」そうしてはじめて社長はぴんときたように足を組んで鼻(の下の)ひげをなでた。「私がパトリックさんの後を継いでここに来ました.しかし一緒に話をしたのは何時間もならないでしょう.」

(42)は先に挙げた寺村(1991)の例文(188)に該当するものであり、否定文に於いて疑問数詞に‘-나’が接尾することによって「そんなにも長い時間何々しなかった」という意味を表している。

一方、(43)は寺村(1991)に於ける(190)に該当し、ここでは同じ否定文中で‘-도’が疑問数詞に接尾して「思ったよりも少ない時間」を表している。

このように日本語では「-も」が二通りの意味を表し得るのに対して、朝鮮語ではそれぞれ‘-나’と‘-도’で表すことになる。これは3. 2. 2. で見た場合と等しく、疑問数詞でも否定文で‘-나’はその数の多さを強調する機能を、‘-도’は概数を表すのである。

なお寺村(1991)では、肯定文に於ける疑問数詞と「-も」の結び付きが、数の多さを強調するとしているが、この場合は次のように‘-나’をもって表し、‘-도’を用いることはできない。

- (44) 조용한 말씨와 잔잔한 눈길. 그리고 알맞게 뒤섞이기 시작한 흰 머리카락. 어느 구석에도 사람을 위압할 만한 요소는 없었다. 오히려 온화함을 느껴야 마땅한 몸매였다. 그런데도 박 회장은 항상 그에게 위압감을 느꼈고, 그것과 대항하기 위해 평소의 몇 배나 신경을 써야 했다.(K)

静かな言葉遣いと穏やかな眼差し.そして似つかわしく混ざり始めた白い髪の手. どんなどころにも人を威圧するような要素は無かった.むしろ温和さを感じて当然の体つきだった.そうであるにもかかわらずパク会長は常に彼に威圧感を感じ,それと対抗するために平常の何倍も神経をつかわなければならなかった.

3. 4. 2. 小さい数(量)を表す語との結び付きについて

これまでは‘-도’の前に来る語を品詞別に分けてきたが, 用例を分析する過程で‘-도’が品詞という枠組みを越えて, 共通した意味的特徴を持つ語との結び付きの中で表す意味があることが明らかになった.

‘-도’は小さい数量を表す語と結び付いた場合, 否定文に於いて全体否定の意味を表す.

(45)타버린 할머니의 묘 주위 여기저기 앉아서 마을 사람들은 아저씨가 원하는 담배를 맘을 닦으며 피웠습니다. 불길이 그만해서 잡혔기 다행이라고 입을 모아 말했습니다. 가을부터는 산에서 담뱃불 하나도 붙이지 말아야 하는 것이라고 말했습니다.(겨울)

燃えてしまったおばあさんのお墓(の)周囲(の)あちこちに座って, 村人たちはおじさんが勧めるタバコを, 汗を拭きながら吸いました. 火がほどほどのところで消えて幸いだと口を揃えて言いました. 秋からは山でタバコの火(を) 一つも点けてはならないということだと言いました.

(46)이른바 교육수요의 조정 및 억제정책을 꾸준히 밀고 나간 셈이다. 이 과정에서 국민반발을 무마하고 교육시키는 피나는 노력이 있었다. 우리는 그러지를 못하고 있어 너도나도 무조건 대학에 가려는 풍토가 조금도 수그러들지 않고 있는 실정이다.(일보)

所謂教育需要の調整及び抑制政策を根気よく推し進めたわけである. この過程で国民(の)反発をなだめて教育させるのは血(が)出る努力があった. 我々はそうできずにいて君も私も無条件大学に行こうという風土が 少しも和らいでいない実情である.

(47)나는 나 자신에 대해서나 다른 사람들에 대해서나 아주 조금하게 굴었다. 그는 나의 이런 참을성 없는 태도를 종종 나무랐다. 나는 잠시도 가만히 있지 않았다. 평상시에도 내가 직접 나서는 일인 한 15가지는 될 정도였다. 그러나 아마 그 3분의 2가량은 사실상 별로 중요한 일이 아니었을 것이다.(K)

私は私自身に対してや, 他の人たちに対してや, とてもせっかちに振舞った. 彼は私のこのようなこらえ性(の)ない態度を時々責めた. 私は ひと時もおとなしくしていなかった. 平常時にも私が直接出ることがおよそ15個(に)はなるぐらいだった. しかし多分その3分の2程は事実上別に重要なこと(で)は無かったのだろう.

(45)は‘-도’が数詞‘하나’と結び付いて, 否定文の中で全体否定を表

している。また(46), (47)はそれぞれ ‘조금’ 「少し」, ‘잠시’ 「しばらく (短い間)」という副詞と結び付き, 同様に全体否定を表している。

以上, ‘도’ が否定文の中で疑問詞や不定詞, 少ない数量を表す数詞に接尾した場合の, それらが表す意味について述べたが, これらには 3. 1. ~ 3. 3. で述べた ‘도’ とは異なる構文上の特徴がある。

以下に日本語に於ける取り立て助詞の任意性と関連して, 朝鮮語の特殊助詞に於ける任意性について述べたいと思う。

まず日本語の取り立て助詞について, その構文論的特徴として沼田(1986他)では, その任意性を認めており²⁴⁾, それは次のようなものである。

沼田(1986:112)より例文を挙げる。

- (4) a. 太郎は電車の中で ϕ 勉強する。
b. 太郎は電車の中でも勉強する。

沼田(1986:112)は, 取り立て助詞自体には固有の意味, 機能があるゆえに, 取り立て助詞がある文と無い文とは意味が異なるので, それらは別の文であるが, (4)の a., b.に見るように, 取り立て助詞はそれがなくても文の成立に支障をきたさないとした上で, その任意性について次のように述べている。

「…構文論的な観点から見て, 一文の構成に直接関与するか否かというレベルでは, とりたて詞は必須の要素ではない。つまり, 文構成上任意の要素であるということである。そこで, この特徴を任意性と呼ぶことにする。」

また朝鮮語の特殊助詞の特徴について홍사만(1983 他)²⁵⁾では次のものを挙げている。

- ① 分布上体言以外に用言, 副詞の後にも直接連結され得る。
- ② 格標識として用いられず, 様々な格に通用する。
- ③ 固有の語彙的意味と文脈的意味を持っている。
- ④ 変形の過程に於いて削除される場合がない。
- ⑤ 構文的な職能を持っていない。
- ⑥ 語源的に実辞から転成されたものが多い。

ここで任意性と関連するのは②~⑤であるが, ③, ④は特殊助詞が格助詞とは異なり, 特殊助詞自体に独立した一つの意味や機能があることに関する記述である。これは沼田(1986 他)が言うように, それを含む文と含まない文とは別のものであるということと通じる。

そして②, ⑤について, 홍사만(1983:40)では次のような例を挙げて説明している。

- (67) a. 철수가 간다.

チョルスが行く。

- b. 철수부터 간다.
 チョルスから行く.
- c. 철수만 간다.
 チョルスだけ行く.
- d. 철수도 간다.
 チョルスも行く.

(64)a.は主格助詞‘-가’を含む文であり,その他は異なる特殊助詞を含む文である. 홍사만(1983)は上の例を通して, b.~d.で特殊助詞が主格助詞の位置に来ることから,一見特殊助詞に格を表す機能があるかのように見えるが,次の例をもってそれは誤りであると指摘した.

- (71) a.*철수가[부터, 만, 도] 간다.
 b. 철수 ϕ [부터, 만, 도] 간다.
 チョルス ϕ [から, だけ, も]行く.

- (72) a.*노래를[부터, 만, 도] 부른다.
 b. 노래 ϕ [부터, 만, 도] 부른다.
 歌 ϕ [から, だけ, も]歌う.

- (73) a. 여기에[부터, 만, 도] 비가 온다.
 ここに[から, だけ, も]雨が降る.
- b. 여기 ϕ [부터, 만, 도] 비가 온다.
 ここ ϕ [から, だけ, も]雨が降る.

- (74) a. 철수에게[부터, 만, 도] 준다.
 チョルスに[から, だけ, も]あげる.
- b. 철수 ϕ [부터, 만, 도] 준다.
 チョルス ϕ [から, だけ, も]あげる.

(71), (72)の a.はそれぞれ主格助詞‘-가’, 体格助詞‘-를’の後に特殊助詞が付いた文であるが, これらが非文になり, 格助詞が付かない b.が文法的な文になるということは, 主格, 体格が特殊助詞の前では義務的に削除されなければならないものであり, 一方(73), (74)のように処格助詞‘-에’, ‘-에게’を含む文では, その後ろに格助詞が来ても来なくても非文にはならないことから, この場合の格助詞の削除は随意的であると 홍사만(1983)はしており, つまり特殊助詞は文の構成に関与しないと指摘している.

先に日本語の取り立て助詞がその構文論的特徴として, 任意性があること

に触れたが、朝鮮語の特殊助詞にも同様に、任意性が認められるということである。

筆者が考察した本稿 3. 1. から 3. 3. までの ‘-도’ にはこの任意性が認められるが、3. 4. で述べた ‘-도’ には任意性が無いものがある。

例文(38)~(47)の中で、否定文中では ‘-도’ との結び付きが必須であるものは次の(38) ‘아무’, (39) ‘누구’, (40) ‘어느’ といった疑問代名詞の類と ‘조금’, ‘잠시’ といった少ない量を表す副詞の類である。

今まで特殊助詞の特徴として任意性があるとされていたにも拘わらず、こういった問題に触れられることはなかった。筆者は否定文に於けるこれら ‘-도’ との結びつきが必須な場合を、特殊助詞の特徴上例外的なものとして認めたいと思う。

またこれに関連して、否定文に於ける用法ではないが現代朝鮮語の中で所謂定型句と呼ばれるものに次のようなものがある。

(48) 백치 같기도 하고 욕욕의 화신처럼 느껴지기도 하는 여자였다.
그러나 한 가지 이상한 것은 타고난 창부와도 흡사한 그녀의 언동에도 불구하고 그것이 조금도 추잡스럽거나 불결하게 느껴지지 않는다는 점이었다.(사람)

白痴(の)ようでもあり、肉欲の化身のように感じられもする女だった。しかし一つ違うのは、生まれつきの娼婦にも似た彼女の言動にも拘わらず、それが少しもいやらしかったり不潔に感じられないという点だった。

下線を引いた部分 ‘언동에도 불구하고’ の ‘-에도 불구하고’ は所謂定型句²⁶⁾と言われているが、ここでの ‘-도’ は不可欠のものである。

홍사만(2002:225)ではこの場合に ‘-도’ が削除されたり、他の助詞と置き換えることはできないとしながらも、この ‘-도’ の機能を「強調」であるとした。

しかし ‘-에도 불구하고’ に於いて ‘-도’ が必要不可欠である以上、‘-도’ は抽出不可能であり、これに意味や機能を認めるのは難しいと筆者は考える²⁷⁾。

ここまで ‘-도’ が必須である場合について述べたが、例文(38)~(47)には必須でないものもあった。

(41)の疑問形容詞 ‘아무런’ は、それが修飾する名詞の後に主格を表す助詞 ‘-이’ や、或いはその後ろに何も付かない形でも非文にはならないが、‘-도’ との結び付きでより文意が明確になるものである。また(43), (45)の ‘몇’, ‘하나’ といった疑問数詞、数詞はその後ろに何も付かない形は非文にはならないが、やはりこれも ‘-도’ との結び付きでより文意が明確になる。

また次の例文も類似した例である。

(49) 김재규는 또 정승화 총장도 사건현장에 있었고 같이 차를 타고 육군본부로 왔다고 말했다. 이렇게 되니 수사관들이 동요하는 것이었다. 쿠데타가 진행되고 있다. 내일 아침이면 우리가 반혁명분자로 몰릴지도 모른다는 공포감에 휩싸이는 분위기였다.(K)

キムジェギユはまたチョンスンファ総長も事件現場におり一緒に車に乗って陸軍本部に来たと言った。このようになり捜査官たちが動揺するのであった。クーデターが進行されている。明日(の)朝になれば我々は反革命分子として追われるかもしれないという恐怖感に包まれる雰囲気だった。

ここでの‘몰릴지도 모른다’に於ける‘-도’も、それが無くても非文にはならないが、‘-도’を含む文の方がより文意が明確になるものである。

以上朝鮮語の特殊助詞‘-도’の任意性について述べたが、それには任意性がある場合と無い場合があった。

3. 5. 接続形語尾+·도について

現代朝鮮語には多数の接続形語尾があるが、本稿ではその中でも先行研究に於いて‘-도’との結び付きに関連して述べられた語尾を挙げ、その際の‘-도’が果たして特殊助詞と言えるか否かについて論じたい。

まず I·고^{2,8)}と‘-도’について例を挙げる。

(50) 안쪽의 문이 활짝 열리며, 약간 뚱뚱한 간호사가 홀 쪽으로 얼굴을 내밀고서 말했다. " 어머니, 이렇게 일찍 두 분이나 기다리고 계시네 ! 고맙기도 해라." 간호사답지 않은 호들갑스럽고도 빈정거리는 말투였다.(K)

奥(の)方の門が広々と開けられ、少し太った看護士がホール(の)方に顔を突き出して言った。「あら、こんなに早く二人も待っていらっしやるのね！ありがたくもあるわ。」看護士らしくない大げさで皮肉った言い草だった。

(51) 아래층에서 여자들이 슬픈 목소리로 뭐라고 부르짖는 소리가 들리는가 싶더니, 곧 이어 그들을 지키고 있던 경관이 큰소리로 엄격하고도 단호하게 조용히 하라는 소리가 들려왔다.(K)

下(の)階で女たちが悲しい声で何とかと叫ぶ声が聞こえるようだと思ったら、すぐ続いて彼女らを守っていた警官が大声で厳格で断固に静かにしろという声が聞こえてきた。

(50)の下線部分は‘호들갑스럽다’「大げさだ」の第I語基である‘호들갑스럽-’に並立を表す接続形語尾‘-고’,そして添加の意味を表す特殊助詞‘-도’が接尾したものである。(51)もやはり‘엄격하다’「厳格だ」の第I語基に接続形語尾‘-고’と特殊助詞‘-도’が接尾したものである。

これらは例えば(50)の例文で言うならば,‘-도’が接尾する‘호들갑스럽다’という形容詞と‘빈정거리다’「皮肉る」が,添加を表す特殊助詞の‘-도’によって「大げさでかつ皮肉る」という「AかつB」,「AそしてB」を表しており,(51)も同様である。

また,この二つの例文に於ける‘-도’には任意性があり,それが無くとも非文にはならない。それは接続形語尾‘-고’そのものに並立の意味があるためである。

これに関連して홍사만(2002:222)より以下に例を挙げる。

(70) a. 남의 손을 빌리지 않고도 살아간다.

他人の手を借りなくても生きていく。

b. 남의 손을 빌리지 않고 살아간다.

他人の手を借りず生きていく。

この例について홍사만(2002)は次のように説明している。

「文 b.は単純に‘自立しているという事実’という感情面で中立的な叙述に過ぎず, a.は‘自立することは難しいが可能である’,或いは‘彼は自立する経済力を持っている人間だ’等の含意がある。」として,この場合の‘-도’は話し手の「感嘆」,「強調」を表すとしている。

つまり홍사만(2002)は, a.の意味を「Aにも拘わらず B」,或いは「Aしかし B」として捉えており,かつ a.は b.のように‘-도’が無くとも非文にならず,任意性があるとした。

また同様なものとして次の例を挙げている。

(64) 그렇게 당하고도 어찌 참을 수가 있나.

そんなにされてもどうして我慢できるのか。

これについても(70)a.の場合と等しく,「Aにも拘わらず B」,或いは「Aしかし B」という意味であり,また‘-도’に任意性があるとしている。

しかし,この文の主文を次のように変えると,そこに任意性は認められなくなる。

(52)a. 그렇게 당하고도 그 사람을 사랑해.(作)

そんなにされてもあの人を愛してる。

b.* 그렇게 당하고 그 사람을 사랑해.(作)

つまり(70)a.や(64)について,홍사만(2002)が‘-도’が無くとも非文にな

らないとしたのは, (70)a. では ‘빌리지 않고’ の I·고가本来並立の意味を持っているため,それが偶然主文と意味上の衝突を起こさなかったためであり,ここで ‘-도’ を特殊助詞として,その任意性について述べるのは誤りである.また ‘-도’ が表す意味を見ても,ここでは(50)や(51)に見られるような「添加」の意味は無く,「Aにも拘わらず B」,或いは「Aしかし B」といった,逆接的な意味を表すことから,これを特殊助詞の ‘-도’ として扱うのは困難に思える.

(64)についても接続形語尾 ‘-고’ は並立の他に動作の先行を表すため, ‘-도’ を欠く文であっても,「そんなにされた」後,「どうして我慢できるのか」というように論理的に矛盾が生じない²⁹⁾.このことから一見, ‘-도’ に任意性があるように見えるが,それは ‘-도’ の前に来る接続形語尾が表す意味と主文の表す意味に矛盾が生じなかっただけのことであり,つまり(70)a., b.は論理関係が異なる文なのである.このことが主文を変えた(52)a.b.を通して明らかになった.

従って本稿では, I·고に特殊助詞である ‘-도’ が結び付いたと言えるのは, ‘-도’ が接尾する用言と, ‘-도’ の後ろに来る用言との関係が「Aかつ B」,「Aそして B」を表す場合に限定され,その際の ‘-도’ は特殊助詞であり,その任意性を認めるものとする.

他の接続形語尾について以下に例を挙げる.

(53) 갑자기 테니스같은 무리한 운동을 하게 되면 이른바 테니스엘보라는 퇴행성 관절염에 걸리기가 쉽습니다. 팔을 쓰는 운동뿐만 아니라 주부들이 팔래같은 것을 하다가도 걸릴 수 있는 것이 바로 이 테니스엘보입니다.(K)

急に/テニスのような/無理な/運動を/するように/なると/所謂/テニスエルボーという/関節炎に/かかりやすいです./腕を/使う/運動だけ/ではなく/主婦たちが/洗濯のような/ことを/しても/かかり得るのが/即ち/この/テニスエルボーです.

(54)a. 그가 부르면 자다가도 일어나.(作)

彼が呼ぶと寝ていても起きる.

b.* 그가 부르면 자다가 일어나.(作)

(53)に於いて ‘-도’ を含む文は,「テニスのような腕を使う運動だけではなく,主婦たちは運動よりも腕を使わない洗濯をする.それにも拘わらずかかってしまうのがテニスエルボーである。」を表している.ここで下線部 ‘하다가도’ の ‘-다가’ は用言の第 I 語基と結び付き,動作の中断と他の動作への移行を表すため,この例文でも ‘-도’ の無い文は「テニスのような腕を使う運動だけではなく,主婦たちは運動よりも腕を使わない洗濯をし

た。」後「テニスエルボーにかかってしまう。」を表し、主文との意味の衝突は起こさないが、この場合の‘-도’も先に見た「Aにも拘わらずB」、或いは「AしかしB」であるため、これを特殊助詞とは言えない。

(54)の用例も、a.は「彼が呼べば寝ていたにも拘わらず起きる。」であり、これはb.の‘-도’の無い文では「彼が呼べば寝ていた。」後「起きる。」では接続形語尾‘-다가’を含む従属文の用言と主文の用言とが意味的にかみ合わず、非文になってしまう。従ってこの(54)a.に於ける‘-도’も特殊助詞ではない。

以上、形式上‘-도’を欠く文であっても非文にならないが、それが特殊助詞の任意性によるものではなく、また意味の面でも特殊助詞の‘-도’とは見做せない場合について述べた。

この場合の‘-도’が何であるのか、つまり「Aにも拘わらずB」、「AしかしB」といった逆接的な意味を表す語尾として見るべきか、或いは上で挙げた(70)a.や(53)それぞれを‘-고도’、‘-다가도’という一つの語尾として見做すべきか否かについては、今回収集した用例が乏しいため、本稿では論じない。またこれは慎重に扱われなければならない問題であると思うので、今後の課題としたい。

4. おわりに

4. 1. まとめ

・名詞+도

‘-도’が名詞に接尾する際、「添加」と「意外」の意味を表すが、前者の場合、‘-도’が接尾することによって現われる姉妹項目は、‘-도’が接尾した文中の述語句を共有し、‘-도’が接尾した名詞と同じ文法格に立つ場合があるだけではなく、異なる述語句であっても、それらが類義的な関係であって同じ文法格に立つ場合、そして述語句を共有していない場合であっても、文脈などによって‘-도’が接尾する名詞と姉妹項目との関係を示す場合とがある。またその姉妹項目は明示的な場合だけでなく、暗示的な場合もある。

後者については‘-까지’、‘-마저’、‘-조차’といった他の特殊助詞に置き換えが可能であるが、その場合に於いても‘-도’が表す「意外」の意味は「添加」の意味を軸にしている。「意外」の意味が現われるのは、‘-도’が接尾する名詞に対する、話し手の認識、社会的な常識が反映されるからである。

・数詞+도

「1」のような自然数で最も小さい数以外の数と結び付く際、‘-도’は肯定文や疑問文で‘넘다’などのある地点をオーバーすることを表す動詞や副詞と共に用いて、その数の多さを強調する働きをする。但し否

定文に於いてはそのような動詞や副詞の制約はなく, ‘-도’ が接尾した数詞より下の数の概数性を表す.

・副詞+·도

この場合の ‘-도’ は従来の研究では「強調」を表すとされてきたが, ‘-도’ に接尾する場合としない場合との意味的な差異は微妙であるため, ‘-도’ そのものに「強調」の意味があるというより, ‘-도’ という形態素の添加によって, 結び付く副詞の意味を拡大しているかのように見える可能性がある.

また副詞によっては話し手の心的態度を積極的に表し得るものもある.

・否定文に於ける ‘-도’

疑問詞や不定詞, 自然数の「1」といった数詞, ‘조금’ などの少量を表す副詞と ‘-도’ が結び付き, それらが否定文で用いられる場合, 全体否定の意味を表す.

特殊助詞の特徴の一つにその任意性が挙げられてきたが, これらと結び付いた ‘-도’ には, 任意性が認められる場合と認められない場合がある.

・接続形語尾+·도

‘-도’ は, それが接尾した接続形語尾と主文の述語との関係に於いて, 「A にも拘わらず B」或いは「A しかし B」という関係と, 「A かつ B」或いは「A そして B」という関係を表す場合がある. 前者は一見 ‘-도’ に任意性があるように見えるものだが, 実際にはそれは接続形語尾が持つ意味によって主文と意味的な衝突を起こさなかった故に非文にならなかったものであり, かつこの際の ‘-도’ が表す意味を考慮しても特殊助詞とは認められない. 後者の場合に限って特殊助詞とするのが妥当である.

4. 2. 今後の課題

本稿では「意外」の意味を表す ‘-도’ と関連して ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ といった他の特殊助詞との置き換えという観点からこれらの考察を行ったが, これらの特殊助詞について個別に述べるに至らなかった. 今後, これらについても, 今回得た結果を土台にし, 新たに考察を行いたい. また, ‘-도’ が数詞などと結び付く場合に於いて述べた ‘-나’ に関しても, 本稿で述べた関連性以外に並立助詞的な用法があり, それも ‘-도’ と深く関連するものと思われる. これについても改めて述べる予定である.

最後に接続形語尾との結び付きに於いて, 今回は2つの語尾を例として述べたが, 本稿で特殊助詞とした ‘-도’ と特殊助詞ではないとした ‘-도’ についても, 今後用例を収集し, その他の接続形語尾と接尾した場合生じる問

題などを分析することによって、より明確に論じられると思われる。

現在研究者の間で特殊助詞と認めている数に動揺があるという問題がある以上、このような marginal なものについて慎重に考察を行うことは、特殊助詞の全体像を解き明かす上で必須となるであろう。

また従来特殊助詞と認められているものについても、果たしてそれが特殊助詞とし得るか否か綿密に分析を行うつもりである。

謝辞

指導教授でいらっしゃる門脇誠一先生、神田外語大学の菅野裕臣先生、浜之上幸先生、東京外国語大学の南潤珍先生には大変貴重なご教示を賜った。

またインタビューに協力して下さったインフォーマントの方々無しには分析はなし得なかった。あわせてお礼申し上げたい。

なお、本稿の誤りは全て筆者の責任である。

《註》

1) 韓国ではこの他に補助詞、限定詞などとも呼ばれ、北朝鮮では‘도움토’「補助詞」と呼ばれている。なお、本稿では特殊助詞と呼ぶことにする。

2) 次に挙げるものが研究者たちの間で一致しているものである。

‘-는’, ‘-도’, ‘-만’, ‘-야’, ‘-라도’, ‘-조차’, ‘-마저’, ‘-나마’, ‘-부터’, ‘-까지’

홍사만 Hong Saman(2002)では、‘-나’は他のすべての先行研究に於いて共通して挙げられているものではないが、‘-나’を特殊助詞としての意味・機能を持つものとしている。筆者も홍사만(2002)の主張を妥当と見做し、任明秀(2004)に於いてこれを特殊助詞とした。

3) 以下にインフォーマントの出身地、年齢、最終学歴を記す(なお性別は全員女性である)。

- ・慶山北道出身(22)蔚山大学在学中(2名)。
- ・ソウル出身(26)慶熙大学卒業。
- ・ソウル出身(28)ソウル大卒業。
- ・済州道出身(29)清華大学大学院(北京)修士課程修了。

4) In-Seok Yang(1973)より例文を挙げる(例文番号は原文のままだが、本稿中の例文と識別するために下線を引いた)。

(27) a. ‘Mary’ 가 아들을 낳았대요.
‘Mary’ が息子を産んだそうです。
b. ‘Susie’ 도 아들을 낳았대요.
‘Susie’ も息子を産んだそうです。
c. ‘Susie’ 도 딸을 낳았대요.
‘Susie’ も娘を産んだそうです。

この例は a と b, a と c という対をなす文であるが、前者の場合は one-element-difference principle に反していないものである。一方後者はそれに反しているが、この場合、a の発話を受けて c の話し手が性別に関係なく「子供を生む」という点に双方 semantic goal があると見做したため発せられ、対話が成立している例であるとした。

5) 채완(1977:43)に於いて

(238) 날씨도 유난히도 좋다.
天気も格別にも良い。

この用法について 최현배(1946)では‘感動助詞’としているが、채완(1986)ではこれを特殊助詞が持つ話し手の主観表現から派生した意味として見るのが妥当としている。

⁶¹⁾ 채완(1977:42)は、文接続と句接続の例として次のものを挙げている。

(235) 영이도 순이도 낙제를 했다. (文接続)

ヨンイもスニも落第をした。

(236)* 아버지도 아들도 서로 닮았다. (句接続)

父も息子も互いに似ている。

(237)* 영이도 순이도 서로 싸운다. (句接続)

ヨンイもスニも互いに喧嘩する。

⁷⁾ この際の意味をどのように表すか研究者によって異なるのは、2. で見た通りだが、本稿ではこの意味を「添加」とする。

⁸⁾ 例文の () は本文に無いもので日本語訳で補ったものである。また日本語訳は原文との対応をしやすいように敢えて直訳としたため、多少不自然な所がある。また、例文の最後に記した () 内のハンゲルは原典のタイトルを略したものである。

⁹⁾ 「取り立て」という術語は宮田(1948)に由来し、沼田(1984他)では「とりたて詞」とし、益岡(1990)、寺村(1991)では「取り立て助詞」としている。本稿では「取り立て助詞」に統一する。

¹⁰⁾ 朝鮮語の副詞句が「-도」と結び付くことによって自者、他者の関係を表す場合について筆者が収集した用例にはなかったため、ここでは名詞句に限って考察する。

¹¹⁾ 結合の固さについては、任明秀(2004)3. 1. 1. を参照。

¹²⁾ 2. や巻末の付録にあるように、この場合の意味をどのように表すかは研究者によって異なるが、本稿では「-까지」, 「-마저」, 「-조차」との置き換えが可能とされている。「-도」の意味を「意外」とした。

¹³⁾ 「-마저」, 「-조차」に対応する日本語は、巻末の付録にもあるようにいずれも同様に「-までも」, 「-さえ」, 「-すら」とされており、各々に適切な日本語訳を割り当てることは現時点では困難であり、却って「-마저」, 「-조차」の意味を深く捉える上で弊害が生じる恐れがある。従って用例ごとに適宜変えることにする。

なお沼田(2000:175)では、日本語の取り立て助詞の「意外」を表す「-さえ」を「さえ1」とした上で(この他に「最低条件」を表す「-さえ2」がある)、「-すら」との違いについて、「…ただし現代語「すら」はあまり使われず、「さえ1」にほとんどかわられてしまっている。」として、それらの違いについて言及されていない。

また「-まで」, 「-も」, 「-さえ」の違いについては、寺村(1991:122)で、「-も」と「-さえ」は「…「モ」は「Xサエ…P/Pナイ」において、「X」と「P/Pナイ」の結びつきの意外さが、世間一般の常識になっているときのみ、「サエ」の代わりにすることが出来る。そうでない場合、つまり、「X」と「P/Pナイ」の結びつきの意外さが話し手の単なる主観である場合には、「モ」を使うことはできない。」とし、「-も」と「-まで」は「…「XマデP」の強調的効果もやはりXが意味的にPと結びつきうる名詞の集合のなかで、中心から最も遠いところ、序列的に最下位にあるもの、という常識に依存している点では同じということができる。しかし、モと違うところは、「Xモ」は、そのような常識をもたない聞き手の場合、単に「同化的」(<X以外のなにかと同様Xも>)に解釈される結果になるのに対し、「Xマデ」は、Xが時間・空間の延長上の一点を表すという意味特性をもたない一般の名詞であるかぎり、話し手がXとPを上のような意味で結びつけようとしていることは伝えうるという点である。」とした。「-まで」と「-さえ」については、「「XマデP」と「XサエP」の意味の違いはなかなか複雑ではあるが、基本的には、前者では、XがPと結び付く名詞の集合のなかの、中心から最も離れたところにあるという含みをもたせつつも、そのメンバーとして捉えられているのに対し、後者では、XがふつうはPと結びつく名詞の集合の外にあるものとして捉えられている、という点であろうと思う。」としている。

¹⁴⁾ 「-까지」にはここから時間的・空間的な区分を限定する格助詞と、本稿で述べる「意外」を表す特殊助詞の二つがあり、「-마저」も特殊助詞以外に副詞がある(巻末付録参照)。

¹⁵⁾ 但し本稿で述べる置き換え可能・不可能は、特殊助詞が文脈に左右されることから、用例ごとに述べ得るものであって、絶対的なものではない。

1⁶⁾ 日本語の取り立て助詞「-まで」も次の例のように

a 昨日札幌まで行った.

b 昨日恋人に会いに札幌まで行った.

では, a は格助詞として差し支えないであろうが, b は単純に到達格として捉えることができる一方, 「そんなに遠い所」という意味として取り立て助詞とも捉え得る.

1⁷⁾ 홍사만(2002:356)から例を挙げる(但し特殊助詞の日本語訳は文脈に沿うものを一つ記した).

(33)b. 졸업할 때는 최고상[까지, *조차, *마저] 땀다.

卒業するときは最高賞までとった.

(34)b. 졸업할 때는 개근상[*까지, 조차, 마저] 못 땀다.

卒業するときは皆勤賞さえとれなかった.

홍사만(2002)は可能性の低い項目に「-까지」が結びつき, それが肯定文に現れることでその他の可能性の高い項目が肯定されることを表し, 「-마저」, 「-조차」は可能性の高い項目が否定されることによって, その他の可能性が低い項目が否定されることを表すとした. これに関連して「-까지」に否定文では用いられにくい傾向があるとした.

1⁸⁾ 菅野(1988:1033)では分離用言について「ある種の用言は2つの構成要素の間に格語尾やとりたて語尾が挿入されて, あたかも2単語のように見えるものがあり, これを分離用言(分離動詞および分離形容詞)と呼ぶことにする.」とし, 「생각하다」を名詞的要素+分離接尾辞として見ている.

1⁹⁾ 채완(1986:98)では, 次のような例を挙げている.

(41) 말단 직원도 해고되었다.

末端職員も解雇された.

(42)[철수, 그 사람]도 해고되었다.

[チョルス, その人]も解雇された.

채완(1986:98)では(41)の例は話し手と聞き手の間に「末端職員は不況時にも最も解雇される可能性が少ない」という約束がある場合にのみ極端な意味(本稿の「意外」の意味)が現れるとし, それに対して(42)の文はそのような意味が感じられないことから, 「-도」に極端な意味を表す機能が無いとした.

確かに「-도」が接尾する名詞に話し手や聞き手の認識, 社会的な常識といった側面が多分に関連することは否めないが, 3. 1. 1. で挙げた「-도」の例文にこのような意味が現れないことを考えると, 「-도」に「意外」を表す機能が全く無いとは言えないと筆者は考える.

2⁰⁾ 3.2.では便宜上, 数詞+名数詞+도 も区別無く扱う. 名数詞とは日本で普通助数詞と言われるものである.

2¹⁾ ここで寺村(1991)の「影」という術語は, 沼田(1986 他)に於ける「含み」に該当すると思われる. 沼田(1986 他)では取り立て助詞の意味論的特徴として本稿 3.1.1.で述べた「自者と他者」とその他に「主張と含み」, 「肯定と否定」, 「断定と想定」を挙げており, その内「主張と含み」については「主張はとりたて詞が明示する意味であり, 含みはとりたて詞が暗示する意味である」としている. 但し寺村(1991)の「影」は, 沼田(1986 他)に於ける「自者」に対する「他者」(本稿で言うところの姉妹項目)といった命題間の範列関係について言及する際にも用いられている.

2²⁾ 「조금」 「少し」のように, 量や数が少ないことを表す副詞と「-도」との結び付きについては, 3.4.2.にて述べる.

2³⁾ 朝鮮語では例えば疑問詞「누구」 「誰」は「誰か」をも表し得る. そこで韓国では疑問代名詞と不定代名詞の区別を意味によって区別する研究者もいるが, 先行研究に於いてもこれらを「부정어사」 「不定語辞」としており, 疑問代名詞と不定代名詞の定義は曖昧である. また本稿では「어느」 「どの」といった冠形詞(菅野他(1988:1009)参照)も便宜上一緒に扱う.

2⁴⁾ 沼田(1986 他)では任意性の他に, 分布の自由性, 連体内文性, 非名詞性を挙げている

が、これらは本稿で取り上げる問題と関連が薄いことから、今回はこれらについて言及しない。

- 25) これについて채완(1990)は, 홍사만(1983)独自の見解ではなく, 韓国に於ける特殊助詞の見解と概ね一致するとした上で, その妥当性を認めている。
- 26) 菅野(1988:1018)では「1 単語内の色々な文法的な形(すなわち語幹+接尾辞+語尾)を総合的な形と呼び, 補助的な単語を含む2 単語以上からなる文法的な形を分析的な形と呼ぶ」としており, ‘-에도 불구하고’は後者である分析的な形と言えよう。
- 27) このような場合の‘-도’を特殊助詞と見做すべきか否かは3, 5, で述べる‘-도’と関連すると思われるが, これについては今後の課題としたい。
- 28) I, II, IIIはそれぞれ第I語基, 第II語基, 第III語基を示す。語基とは日本の国文法のいわゆる活用形(未然形, 連用形等)に対応する形である。なお, 菅野(1981:82,90)を参照。
- 29) この接続形語尾‘-고’について연세한국어사전(1998)では並立や動作の先行以外に「反対の事実を対立させることを表す」という意味をたて, 次の例を挙げている。
흥정은 불이고 싸움은 말리라고 했다.
仲立ちは立てて喧嘩は止めろと言った。

これについて接続形語尾‘-고’に「対立」を表す意味があるとするのは難しいと筆者は考える。文脈上明確にし得ないが, やはりこの場合も‘-고’は並立か或いは動作の先行を表しており, もしこの用例で「対立」の意味が感じられる要素があるとするならば, それは主語に接尾する‘-은/un」「-は」という助詞による可能性が高い。

これについて詳細は今後特殊助詞‘-은/는’を考察する過程で明らかになるものだろう。

《参考文献》

- 伊藤健人(1997) 「も」の意味機能—「も」のスコープとフォーカス—, 『言語科学研究』3.
- 大阪外国語大学 朝鮮語研究室(1986)『朝鮮語大辞典』, 角川書店, 東京.
- 奥田靖雄(1978a)「語彙的な意味のあり方」, 『日本語研究の方法』, 麦書房, 東京.
- (1978b)「言語の単位としての連語」, 『日本語研究の方法』, 麦書房, 東京.
- 菅野裕臣(1981) 『朝鮮語の入門』, 白水社, 東京.
- (1986-7)「中級講座」, 『基礎ハングル』1-12, 三修社, 東京.
- 菅野裕臣他(1988)『コスモス朝和辞典』, 白水社, 東京.
- 金吉鎔(1975)「名詞の後につく「나」の文法機能」, 『朝鮮学報』, 76.
- 上藤真由美(2000)「彼は風邪くらいでは休まないよ—否定のスコープと焦点」, 『言語』, 29-11.
- 近藤泰弘(2001)「現代語のとりたて助詞の分類」, 『筑波大学東西文化の類型論特別プロジェクト研究成果報告書平成12年度別冊日本語のとりたて』, 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織.
- 洪思満(1990)『現代韓国語の特殊助詞の研究』, 慶北大学校出版部, 大邱.
- 定延利之(1995)「心的プロセスからみた取り立て詞モ・デモ」, 『日本語の主題と取り立て』, くろしお出版, 東京.
- 竹林一志(1997)「助詞「も」の一用法について—基本的用法との関連」, 『言語』, 26-11.
- 田野村忠温(1991)「「も」の一用法についての覚書—「君もしつこいな」という言い方の位置付け—」, 『日本語学』, 10-9.
- つくば言語文化フォーラム編(1995)『「も」の言語学』, ひつじ書房, 東京.
- 寺村秀夫(1984)「並列的接続とその影の統括問題—モ, シ, シカモの場合」, 『日本語学』, 3-8.

- 寺村秀夫(1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』, くろしお出版, 東京.
- 仁田義雄(1991) 『日本語のモダリティーと人称』, ひつじ書房, 東京.
- 任明秀(2004) 「現代朝鮮語の特殊助詞 ‘-나/이/나’ について」,
北海道大学大学院修士論文.
- 沼田善子(1984) 「とりたて詞の意味と文法—モ, ダケ, サエを例として—」,
『日本語学』, 3-4.
- _____ (1986) 『いわゆる日本語助詞の研究』, 凡人社, 東京.
- _____ (1989) 「とりたて詞とムード」, 『日本語のモダリティー』,
くろしお出版, 東京.
- _____ (1992) 「とりたて詞と視点」, 『日本語学』, 11-8.
- _____ (2000a) 「とりたて」, 『時・否定と取り立て』, 岩波書店, 東京.
- _____ (2000b) 「「塩も入れないと, 美味しくならない」—とりたて詞と否定」,
『言語』, 29-11.
- _____ (2001) 「とりたて詞の作用域否定」, 『筑波大学東西文化の類型論特別プロジェクト研究成果報告書平成12年度別冊日本語のとりたて』,
筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織.
- 沼田善子・徐建敏(1995) 「とりたて詞「も」のフォーカスとスコープ」,
『日本語の主題と取り立て』, くろしお出版, 東京.
- 野田尚史(1995) 「文の階層構造からみた主題ととりたて」, 『日本語の主題と取り立て』,
くろしお出版, 東京.
- 野間秀樹(1990) 「朝鮮語の名詞分類—語彙論・文法論のために—」, 『朝鮮学報』, 135.
- 益岡隆志(1990) 「取り立ての焦点」, 『日本語学』, 9-5.
- _____ (1991) 『モダリティーの文法』, くろしお出版, 東京.
- 油谷幸利他(1993) 『朝鮮語辞典』(小学館, 金星出版社共同編集), 小学館, 東京.

- 국립국어연구원(1999) “표준어국어대사전”, 두산동아, 서울.
- 국어대사전(1991) “국어대사전”, 금성출판사, 서울.
- 김석득(1994) “우리말 형태론”, 탐출판사, 서울.
- 김승곤(1989) “우리말 토씨 연구”, 건국대학교출판부, 서울.
- _____ (1996) “현대 나라 말본”, 박이정출판사, 서울.
- 김용구(1989) 《조선어문법》, 사회과학출판사, 평양.
- 김일성종합대학어문학연구소 조선학연구실(1964) 《조선어문법》,
평양고등교육도서출판사, 평양.
- 김진수(1987) “국어집속조사와 어미연구”, 탐출판사, 서울.
- 남윤진(2000) “현대국어의 조사에 대한 계량언어학적 연구”, 태학사, 서울.
- 문화어문법규범(1972) 《문화어문법규범》, 김일성종합대학출판사, 평양.
- 박종국(1980) “말본사전”, 문지사, 서울.
- 백봉자(1999) “외국어로서의 한국어문법사전”, 연세대학교 출판부, 서울.
- 사회과학원 언어연구소(1973) 《조선문화어사전》, 사회과학원출판사, 평양.
- 서영섭(1981) “조선어실용문법”, 료농인민출판사, 심양.
- 서정수(1996) “국어문법”, 한양대학교출판원, 서울.
- 신기철, 신영철(1985) “새 우리말 큰사전”, 삼성출판사, 서울.
- 연세한국어사전(1998) “연세한국어사전”, 연세대학교 출판부, 서울.
- 이남순(1996) ‘특수조사의 통사기능’, “震檀學報”, 第82号.
- 이석규(1992) ‘현대국어 도움토씨의 의미 연구’, “한국어의 토씨와 씨끝”
(김승곤編), 서광학술자료사, 서울.
- 이승재(1994) ‘-이’의 삭제와 생략’, “주시경학보”, 제13집.
- 이원근(1995) ‘도움토씨 ‘나’, ‘나마’, ‘라도’에 대하여’,
“연세어문학”, 27.
- _____ (1996) ‘도움토씨의 서법 제약’, “국어문법의 탐구Ⅲ-국어 통사론의 문제와 전망-” (남기심編), 태학사, 서울.

- 이익섭, 채완(1999) “국어문법론강의”, 学研社, 서울.
- 이희승(1982) “국어대사전”, 민중서림, 서울.
- 이희자, 이종희(1998) “텍스트분석적 국어조사의 연구”, 한국문화사, 서울.
- _____ (1999) “텍스트분석적 국어어미의 연구”, 한국문화사, 서울.
- _____ (2001) “한국어 학습용 어미·조사 사전”, 한국문화사, 서울.
- 임흥빈(1993) “뉘앙스표이를 겸한 우리말 사전”, 아카데미하우스, 서울.
- 정동환(1992) ‘현대국어의 도움토씨 연구’, “한국어의 토씨와 씨끝” (김승곤編), 서광학술자료사, 서울.
- 조선말대사전(1992) 《조선말대사전》, 사회과학출판사, 평양.
- 조선말사전(1960) 《조선말사전》, 과학출판사, 평양.
- 조선말사전(1992) “조선말사전”, 연변인민출판사, 연길.
- 조선문화어문법(1979) 《조선문화어문법》, 과학, 백과사전출판사, 평양.
- 조선문화어문법규범(1977) 《조선문화어문법규범》, 김일성종합대학출판사, 평양.
- 조선어(1970) 《조선어》, 교육도서출판사, 평양.
- 조선어문법(1970) 《조선어문법》, 김일성종합대학출판사, 평양.
- 조선어문법(1983) “조선어문법”, 연변인민출판사, 연길.
- 차광일(1981) “조선어도대비문법”, 료녕인민출판사, 심양.
- 채완(1977) ‘現代國語 特殊助詞의 研究’, “國語研究”, 第 3 9 号.
- _____ (1986) ‘특수조사’, “국어생활”, 5 호.
- _____ (1990) ‘特殊助詞’, “국어연구 어디까지 왔나”, 東亜出版社, 서울.
- _____ (1993) ‘특수조사 목록의 재검토’, “국어학”, 23, 서울.
- _____ (1995) ‘韓國語 特殊助詞 研究의 한反省’, 『朝鮮學報』, 154.
- _____ (1998) ‘특수조사’, “문법연구와 자료”, 태학사, 서울.
- 최동주(1999) ‘이’ 개 특수조사의 문법화’, “형태론”, 봄철 1 권 1 호.
- 최유갑(1980) “조선어문법”, 료녕인민출판사, 심양.
- 최정후(1983) 《조선어학개론》, 과학, 백과사전출판사, 평양.
- 최현배(1937/1971) “우리말본”, 정음사, 서울.
- 한글학회(1992) “우리말 큰사전”, 어문각, 서울.
- 허용(1983) “국어학”, 샘문화사, 서울.
- _____ (1995) “20 세기 우리말의 형태론”, 샘문화사, 서울.
- 현대조선말사전(1981) 《현대조선말사전》 (제 2 판), 과학, 백과사전출판사, 평양.
- 홍사만(1983) “국어특수조사론”, 학문사, 서울.
- _____ (2002) “국어 특수조사 신연구”, 도서출판 역락, 서울.

- F. R. Palmer(2001) *Mood And Modality Second edition*, Cambridge university press.
- In-Seok Yang (1973) *Semantics of Delimiters*, “語學研究”, 9 卷 2 号.
- 韋旭昇, 許東振 (1986) “朝鮮語實用語法”, 商務印書館, 北京.
- 宣德五(1994) “朝鮮語基礎語法”, 商務印書館, 北京.

< 出典一覽 >

- (거울): 김채원 “거울의 환 ~밥상을 차리는 여자 ~”, “1989 이상문학상 수상작품집 제 13 회대상수상작”, 문학사상사, 서울, 1989.
- (그림자): 오정희 “그림자 밝기”, “夜會” (오정희), 나남출판, 서울, 1990.
- (당신): 김인숙 “당신”, “칼날과사랑” (김인숙), 창작과비평사, 서울, 1993.
- (사랑): 김수현 “사랑이 뭐길래 1”, 제 3 기획, 서울, 1992.
- (아들): 이분열 “사람의 아들”, 민음사, 서울, 1979.
- (여자): 신경숙 “배드민턴 치는 여자”, 문학과학지성사, 서울, 1993.
- (영웅): 이분열 “우리들의 일그러진 영웅”, “1987 이상문학상 수상작품집 제 11 회대상수상작”,

-
- (일본): 문학사상사, 서울, 1987.
“조선일보” (1994年12月分) .
(하나코): 최윤 “하나코는 없다” ,
“1994 이상문학상 수상작품집 제 18 회대상수상작” ,
문학사상사, 서울, 1994.
(한국): 부부세 타다시 “한국이 죽어도 일본을 못 따라잡는 18 가지 이유” ,
사회평론, 서울, 1997.
(K): KAIST CONCORDANCE PROGRAM
<http://morph.kaist.ac.kr/kcp/>

付録

意味に関する辞書, 文法概説書等の記述一覧

·도について	p 1~7
·까지について	p 8~12
·마치について	p 13~15
·조차について	p 16~19

<p>大阪外国語大学 朝鮮語研究室 (1986) 『朝鮮語大辞典』, 角川書店, 東京。</p> <p>省野裕臣他 (1988) 『コスモス朝和辞典』, 白水社, 東京。</p> <p>袖谷幸利他 (1993) 『朝鮮語辞典』 (小学館, 金星出版社共同編集), 小学館, 東京。</p>	<p>-도</p> <p>[助] も</p> <p>① (二つ以上の事・物を並べる意を表して) も : 【꽃도 피고 잎도 된다.】 ② (-기도 하다고) 感嘆の意を表す。: 【참 좋기도 하다.】 ③ (不定称の語についてその類を総括する意を表して) …도 …도 : 【아무도 모른다.】 ④ (後ろに否定的な語を伴って強調の意を表して) …さえ도 (마저) (…ない) 【집까지 없다.】 ⑤ (…이라고) 形で譲歩の意を表して) …도 : 【내일이라도 옵니다.】 ⑥ (程度・數量が普通または予想以上の意を表して) …도 : 【부상자가 천명도 넘는다.】</p> <p>1. [尾] ① …도 같이 가고 싶어요. ② (強調を表す) 【마다가 참 넓기도 하군.】</p> <p>2. I + [用尾] …는事も 【차비가 떨어져서 오도 가도 못 하게 생겼다.】</p> <p>[助] 1 添加の意味を表す ; …도 【꽃도 피었다.】 2 二つ以上のことを列挙するときに用いる ; …도 【너도 나도 열심히 공부하자.】 3 感嘆の意を表す。 【아유, 날씨도 좋다.】 4 意外なことを表す ; …도 【이렇게 쉬운 단어도 모르다니.】 5 譲歩の意を表す ; …도 …도 【열차편도 좋습니다.】 6 否定を強調するときに用いる ; …도 【듣지도 않은 편지.】 7 (用言の連用形について) 譲歩の意を表す ; …도 …도 …도 【여름도 아난데 왜 이렇게 더울까?】 8 (아니다를伴って) …도 …도 (なる) 【그렇게 게으름 부리다가는 제장도 못 될 거다.】 9 (되다를伴って) …도 …도 (なる) 【그렇게 게으름 부리다가는 제장도 못 될 거다.】</p>
<p>국립국어연구원 (1999) “표준어국어대사전” , 두산동아, 서울.</p>	<p>[조] (체언류나 부사어, 연결 어미 ‘-아, -게, -지, -고’, 합성 동사의 진행 요소 따위의 뒤에 붙어) ① 어미 어떤 것이 포함되고 그위에 더함의 뜻을 나타내는 보조사. 【나도 이제 늙었나 보다.】 ② (주로 ‘…도…도’, 구성으로 쓰여) 둘 이상의 대상이나 사태를 똑같이 아우름을 나타내는 보조사. 【아기가 눈도 코도 예뻐다.】 ③ 양보하여도 마찬가지로 허용됨을 나타내는 보조사. 【찬밥도 좋으니 빨리만 먹게 해 주세요.】 ④ 극단적인 경우까지 양보하여, 다른 경우는 더 말할 필요도 없이 그러하다는 뜻을 나타내는 보조사. 【개미 새끼 한 마리도 얼씬거리지 못하게 하라.】 ⑤ 보통이 아니거나 의외의 경우에, 예외성이나 의의성을 강조하는 데 쓰이는 보조사. 【침 앞까지 갔다가도 그냥 왔지요.】 ⑥ 놀라움이나 감탄, 실망 따위의 감정을 강조하는 데 쓰이는 보조사. 【성적이 그렇게도 중요할까?】</p>
<p>국어대사전 (1991) “국어대사전” , 금성출판사, 서울.</p>	<p>[조] 동류의 것이 더 존재함을 나타내는 보조사. 보통 체언・활용어미・부사의 뒤에 붙는데, ‘하다’ 가 붙어 형용사를 이루는 ‘조용’, ‘깨끗’ 과 같은 어근에 붙기도 함. ① 이미 있는 어떤 사실이나 사물에 그것이 포함됨을 나타냄 【너도 가야 한다.】 ② 첨가의 뜻을 나타냄. 【표창에다 상금도 받았다.】</p>

	<p>③양보와 허용의 뜻을 나타냄. 【싼 것도 좋습니다.】 【오늘이라도 상관없다.】</p> <p>④어떤 사실을 재확인하거나 강조하는 의미를 나타냄. 【정말 달빛이 밝기도 하다.】</p> <p>⑤ (부정하는 말과 함께 쓰이어) 그 부정을 극대화함. 【나는 한번도 거짓말을 한 적이 없다.】</p> <p>⑥예상 밖으로 많거나 적음을 나타냄. 【1억 원도 넘는다.】</p> <p>⑦예상 이상의 사실이나 개념을 한꺼번에 열거할 때 쓰임. 【하늘도 바다도 푸르다.】</p> <p>1 강조 【힘도 없으면서 큰소리만 친다.】, 느낌 【거리에는 차도 참 많구나.】</p> <p>2 역시 한가지, 같음 【어린도 관람할 수 있다. (어린이 관람의 가능성이 전제)】</p> <p>*1, 2는 '역시성' 으로 묶을 수 있다.</p>
<p>김석득(1994) "우리말 형태론" , 탑출판사, 서울.</p> <p>김승곤(1996) "현대 나라 말본" , 박이정출판사, 서울.</p>	<p>1) 같은 종류의 것으로서 공존하는 것을 제시한다 【이것도 저것도 다 내 것이다.】</p> <p>2) 사정이 비슷한 다른 사물의 존재를 암시하여 유추시키는 형식으로 하여 어떤 사물을 제시한다. 【어떤 사람이 그녀와 친해져서 결혼했다는 이야기도 있었다.】</p> <p>3) 당면한 사물을 어떤 타당한 영역에 포함되는 것으로 보고 함축적으로 제시할 뿐 무엇과 같은가는 분명히 제시하지 않는다. 【기나긴 중국의 내전도 이제는 급속히 종결에 가까워지고 있다.】</p> <p>4) 너무 눈에 띄지 않거나 극단적으로 생각되지 않는 사해를 제시함에 의하여, 내포되는 영역이 그것에까지 미친다고 하는 과장된 뜻을 나타낸다. 【필요하면 그것마저 빌려 주려는 것도 생각하고 있다.】</p> <p>5) 풀이말을 제시하여 부정의 뜻을 가진 말을 수반하여 강한 부정적 주장을 나타낸다. 【그들은 돌아보지도 아니하고 짐을 쌓고 있더라.】</p> <p>6) 대체적인 정도를 제시한다. 【15미터도 넘는 높은 나무 위에서 그들은 장난을 하고 있다.】</p> <p>7) 강조를 나타낸다. 【그는 조금의 설 사이도 없이 공부만 한다.】</p> <p>8) 「도」는 때어찌세 중 「가끔, 비로소, 처음, 드디어」 등에는 바로 쓰일 수 없고, 모양어찌세 중 「잘, 천천히, 빨리, 가만히」 등에는 물론 정도어찌세 중 「조금, 약간」 등에 쓰이어 강조를 나타낸다. 【어지간히 친친히도 온다.】</p> <p>9) 「도」는 의미적으로 극단적인 것을 나타내기도 한다. 【그는 나에게 한 푼도 주지 않았다.】</p> <p>10) 양보, 허용을 나타낸다. 【노처녀도 괜찮다.】</p> <p>11) 「도」는 자리토씨와 도움토씨에 올 수 있다. 【우리 학교에서도 이겼다.】</p> <p>12) 당연히 할 것을 안 할때 쓰임. 【그는 일도 하지 않는다.】</p>
<p>김용구(1989) 《조선어문법》, 사회과학출판사, 평양.</p> <p>김일성종합대학어문학연구소 조선학연구소(1964) 《조선어문법》, 평양고등교육도서출판사, 평양.</p> <p>문화어문법규범(1972) 《문화어문법규범》 , 김일성종합대학출판사, 평양.</p>	<p>포함(강조의 관제도 나타냄) 【사람도, 나무도】</p> <p>①포함되는 대상. 【나도 가고 너도 가야 한다.】</p> <p>②강조되는 대상. 【달도 참 밝구나.】</p>
<p>백봉자(1999) "외국어로서의 한국어문법사전"</p>	<p>포함 【...김일성동지, 그의 이름은 오늘 이프리카의 유전과 커피재배원에서도...】</p> <p>강조 【아이도 참 똑똑도 하구나.】</p> <p>【보】 '또, 또한, 역시' 따위의 의미로 해석된다.</p>

연세대학교 출판부, 서울.	1. 한 문장에서 두 가지 이상의 사물을 한꺼번에 열거하는 경우. 【요즘 돈도 없고 시간도 없다.】 2. '문맥으로 파악할 수 있는 것과 마찬가지로' 의 의미로 쓰는 경우. 【지금도 화가 안 풀렸니?】 3. 강조의 의미로 쓰는 경우. (특히 정도 부사어에 붙었을 때 강조의 의미를 나타낸다. 【많아도 떠는다.】)
사회과학원 언어연구소(1973) 《조선문화어사전》, 사회과학원출판사, 평양.	【토】 도움토의 하나. ① 다른것에 그것도 같이 포함시킴을 나타낸다. 【우리 인민이 나아가는 앞길에서는 보수주의자도, 기술신비주의자도, 소극분자도 배겨날수 없다.】 ② 강조 또는 감탄의 뜻을 가진다. 【아이, 그 소년단동무가 참 신봉도 하지.】 포함 【우리는 하느님도, 신진도, 임금도 믿지 않는다. 우리는 다만 제 손으로 인류행복을 창조하리.】 강조 【그는 정말 용감도 하지.】 【오도 가도 못한다.】 【넋지도 쫓지도 않다.】
서영철(1981) “조선어실용문법”, 로동인민출판사, 심양.	【조】 ① 다른 것에 그것도 포함시킴을 뜻하는 조사. 【너도 그도 좋은 친구이다.】 ② 강조의 뜻을 가지는 조사. 【돈도 없으면서 무엇을 하겠소?】
신기철, 신영철(1985) “새 우리말 큰사전”, 삼성출판사, 서울.	【조】 보조사 I ① (동일한 행위나 동일함을 열거할 때 쓰이어) ‘또한’ 이나 ‘역시’ 의 뜻. 【아빠, 우리도 한국에서 살면 좋겠어.】 ② 두 가지 이상의 동일한 행위나 그러한 상태를 나열하면서, 말한 것 외에도 그와 비슷한 사실이 더 있음을 암시하여 나타냄. 【이 집은 줄 값도 싸고, 분위기도 좋다.】 ③ (‘~도~도...’ 의 꼴로 쓰이어) 나열된 모든 사실이 다 동일함을 나타냄. 【금전도 명예도 외모도 사랑에 비길 만한 것만 한 것은 못 됩니다.】 ④ (‘-지도 -지도 못하다/않다’ 의 꼴로, 반대되는 사실을 나란히 들어 전체를 부정함을 나타내어) ‘-는 것 역시’ 의 뜻. 【속지도 싶지도 못한다.】
연세한국어사전(1998) “연세한국어사전”, 연세대학교 출판부, 서울.	II ① (가장 가능성이 희박하다고 생각되는 것까지 포함되을 나타내어) ‘심지어~까지’ 의 뜻을 나타냄. 【책지도 아무레나 통을 누지 않는다.】 ② (부정문에만 쓰이어) (ㄱ) 강한 부정을 나타내어 ‘조차, 결코, 절대로’ 의 뜻을 나타냄. 【이 학생을 본 적도 없는데 내 강의록 듣는다니 해괴한 일이다.】 (ㄴ) (‘아무, 어떠한’ 따위의 관형사나 ‘누구, 무엇’ 따위의 대명사로 된 부정문에만 쓰이어) 전체를 부정함. 【재판관은 어떤 편견도 없이 판결을 내려야 한다.】 (ㄷ) (‘한 번도, 하루도’ 와 같이 하나를 나타내는 말과 함께 부정문에 쓰이어) 전체를 부정함. 【결혼 3년 동안 한 번도 닳을 황히거나 인성을 놓여 본 일이 없는 남편이다.】 III (양보를 나타내어) ① (별로 마음에 들지도 않으나 그보다 더 나은 것이 없으므로 양보하여 그 정도이면 괜찮음을 나타내어) ‘조금 모자라지만 그러나’ 의 뜻을 나타냄. 【복사 상태가 좀 안 좋은 것도 괜찮지요?】 ② ‘아무리 ~라도, 아무리 -르더라도’ 의 뜻을 나타냄. 【틀다리도 두들겨 보고 건너라.】 ③ (‘어떤, 무슨, 누구, 무엇, ’ 등의 대명사와 함께 증명문에 쓰이어, 전체를 긍정하여) ‘모두 다’ 의 뜻을 나타냄. 【그는 어떤 문제도 혼자 풀 수 있다고 자신한다.】

	<p>IV (정도를 나타내는 말에 붙어) 그 정도가 기대보다 많거나 적음을 나타냄. 【그는 입맛이 없는지 반 그릇도 채 못 먹고 숟가락을 놓았다.】</p> <p>V① (강조할 나타내어) '~까지, 정말로, 아주' 의 뜻을 나타냄. 【어머니의 목소리를 아직도 기억하고 있습니다.】</p> <p>② (감탄문에 쓰이어) '정말로, 아주' 의 뜻을 나타냄. 【달도 참 밝구나.】</p> <p>VI ('오도' 가도, 들도 보도, 빼도 보도, 빼도 보도, 빼도 보도 못했던 새들을 카메라에 담느라 정신없이 깃발을 헤맸다.】</p> <p>· 어떤 다른 것에 그것이 함께 포함됨을 뜻한다. 【이 식물은 습지에서조차 잘 자란다.】</p> <p>· 극단 예시의 기능이 있다. 【원숭이도 나무에서 떨어진다.】 또한 다음과 같이 부정문에서 부정대명사에 결합되면 전체 부정이 된다. 【아무도 그 문제는 못 푼다.】</p> <p>【조】 복수 조사의 하나. ① 주격·목적격·보격·부사격 등으로 두루 쓰임. 【취수도 좋은 어린이다.】 ② 감탄의 뜻을 나타냄. 【과연 좋기도 하군.】 ③ 두 가지 이상의 사물을 아울러 들 때에 쓰임. 【너도 나도 공부하자.】 ④ 보통 이하 또는 예상 이하의 뜻을 나타냄. 【그 사람은 집도 없소.】 ⑤ 보통 이상 또는 예상 이상의 뜻을 나타냄. 【친 명도 더 된다.】 ⑥ 특장의 사물을 들어, 그것과 유사한 사물이 다른 데에도 있음을 암시할 때에 쓰임. 【오늘도 춥다.】 ⑦ 양보의 뜻을 나타냄. 【삼등차도 좋소.】 ⑧ 뜻을 강조할 때에 쓰임. 【재미도 없다.】</p> <p>【보】</p> <p>1. '동일함' 의 뜻. ① (같은 행위나 어떠한 것이 같음을 나타낼 때 쓰이어) '또한', '역시' 의 뜻. 【나도 학교에 가요.】 ② (주로 '~도 ~도' 의 꼴로 쓰이어) 나열된 사실들이 다 같은 사정임을 나타낸다. 【돈도 명예도 외모도 사람에 비길 만한 것은 못 됩니다.】 ③ ('-지도 -지도 못하다/않다' 의 꼴로 쓰이어) 반대되는 사실을 나란히 들어 전체 부정음을 나타낸다. 【죽지도 살지도 못한다.】</p> <p>2. '오히려' 의 뜻. ① 가장 가능성이 희박하다고 생각되는 것까지도 포함됨을 나타낸다. '심지어~까지도' 의 뜻. 【개도 주인이 은혜를 갚는다고 한다.】</p> <p>② (부정문에만 쓰이어) 강한 부정음을 나타낸다. 【말도 안 된다.】</p> <p>③ (부정문에만 쓰이어) 전체를 부정함을 나타낸다. 【그에게는 아무런 잘못도 없어요.】</p> <p>3. '양보' 의 뜻. ① 별로 마음에 들지는 않으나 그보다 더 나은 것이 없으므로 양보하여 그것이라도 괜찮음의 뜻을 나타낸다. 【복사 상태가 좀 안 좋은 것도 괜찮지요?】</p>
<p>이희자, 이종희(2001) “한국어 학습용 어미·조사 사전” , 한국문화사, 서울.</p>	

	<p>② '아무리~라도', '아무리~까지'의 뜻. 【물더라도 두들겨 보고 건너라.】 ③ ('누구.무엇.어느' 따위의 긍정문에 쓰이어) 전체 긍정을 나타낸다. 【그 어느 누구도 그런 일은 할 수 있다.】 4. '정도'의 뜻. ① (정도를 나타내는 말에 붙어) 그 정도가 기대보다 많거나 적음을 나타낸다. 【한 뼉도 채 못 되는 발.】 5. '강조'의 뜻. (일부 부사 등에 붙어 쓰이어)강조함을 나타낸다. 【아마도 숙제를 안 한 모양이에요.】 6. '감탄'의 뜻. ① (감탄문 등에 쓰이어) '감탄'의 뜻을 더한다. 【달도 참 밝구나.】 ② ('~도 ~도'와 같이 반복적으로 쓰이어) '감탄'의 뜻을 강조함을 나타낸다. 【어제 시장에 갔었는데 사람도 사람도 그렇게 많을 수가 없구나.】 ③ ('~기도 하다'의 꼴로 쓰이어) 그러하다고 인정하는 것을 강조함을 나타낸다. 【세상에, 사람이 많기도 하구나.】</p>
<p>임흥빈(1993) "뉴앙스풀이를 겸한 우리말 사전", 아카데미하우스, 서울.</p>	<p>[조]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 체언이나 다른 조사를 가진 체언 뒤 또는 용언의 어미 '-기,-게,-면서' 따위의 뒤에 쓰여, 그 앞에 오는 대상이나 일이나 상태가 그 문장에 표현된 일이나 상태 또는 발화 상황에 대해서 가지는 관계와 같거나 비슷한 관계를 가지는 다른 대상이나 일이나 상태가 문장의 앞부분이나 앞선 문장 또는 동일 발화 상황 속에 다시 또 있음을 나타낸다. 【내가 시골에 가면, 너도 가야 한다.】 2. 체언이나 다른 조사를 가진 체언 뒤 또는 용언의 어미 '-기,-게,-면서' 따위의 뒤에 쓰이며, 그 앞에 오는 대상이나 일이나 상태가 그 문장에 표현된 일이나 상태 또는 발화 상황에 대해서 가지는 관계와 같거나 비슷한 관계를 가지는 다른 대상이나 일이나 상태가 문장의 뒷부분이나 뒤의 문장에 다시 또 있음을 나타낸다. 【신랑감이 성격도 좋고 집안도 좋다.】 3. 체언이나 용언의 '-기' 명사형 뒤 또는 부사 뒤에 쓰여, 그 앞에 오는 대상이나 개념이나 말하는 사람 의 기대나 예상의 범위를 넘는 일이나 상태의 관계가 있음을 나타낸다. 【아, 달도 밝다.】 4. 既定의 뜻을 나타내는 문장에, '누구, 무엇, 어디, 어느, 어떤' 등과 같은 의문사나 다른 조사를 가진 의문사 뒤, 또는 이들에 의하여 의미를 받는 체언 뒤 또는 '아무'나 '아무'에 의하여 수식을 받는 체언 뒤, 또는 '하나, 하부'와 같은 체언이나 '하나의, 한'에 의하여 수식을 받는 체언 또는 '조금'과 같이 가장 적은 수나 양을 나타내는 뜻을 표현 뒤에 쓰여, 문체의 대상 전체가 부정의 범위에 포함되거나, 관련되는 대상이나 능력 또는 어떤 일이나 물건이나 경향을 표현하는 문장에서, 어떤 상황에서 문제가 되는 일이나 물건이나 수량 가운데, 보통 정도보다 낮거나 그 정도를 넘는 대상을 나타내는 말 뒤에 쓰이거나, '-아도/어도/여도, -더라도/이더라도, -르더라도/을지라도, -라도/이라도'와 같은 형식에 쓰여, 양보의 뜻을 나타낸다. 【그 사람은 나는 세라도 떨어뜨리는 권력을 가졌다.】 <p>[토] 도움토의 하나.격토가 붙지 않은 체언과 주격, 속격, 대격, 호격범의 격토가 붙은데서 쓰이며 용언의</p>
<p>조선말대사전(1992) 《조선말대사전》</p>	

<p>· 사회과학출판사, 평양.</p>	<p>이음토, 삽화토뒤에 붙어서도 쓰인다. 다른 도음토가 붙은 뒤에서도 쓰이며 부사뒤에도 붙는다.</p> <p>① 해당 사실을 그와 비슷한 계열의 사실에 포함시켜주는 뜻을 가진다. 【산악도 격랑도 넘고 해치며 우리는 떠나면 길 걸어왔어라.】</p> <p>② 강조 또는 감탄의 뜻을 나타내기도 한다. 【참, 신룡도 하지.】</p> <p>【토】관형사를 제외한 각 품사에 속하는 단어들의 여러 형태에 붙을 수 있는 도음토.</p> <p>① 다른 것에 그것도 포함시킴을 나타낸다. 【얇기는 물론 쓰기도 한다.】</p> <p>② 《강조》의 뜻을 가진다. 【아차, 정신도 참, 깜빡 잊었어.】</p> <p>【토】</p> <p>① 《포함》의 뜻을 가진다. 【바다도 하늘도 푸르다.】</p> <p>② 《강조》 또는 《감탄》의 뜻을 가진다. 【천지개벽에 마음도 격양하여다.】</p> <p>《도》는 그가 붙은 단어가 가리키는 대상물 그와 비슷한 계열의 대상, 현상에 포함시켜주는 관제만을 나타내는 것이 아니라 강조해주는 뜻도 함께 가지고 있다.</p> <p>《포함》의 뜻 【우리 당원들과 근로자들은 한순간을 살아도 오직 위대한 수령님을 위하여 살고 위대한 수령님을 위하여서는 청춘도 생명도 기꺼이 바칠 줄 알아야 한다.】</p> <p>《강조》의 뜻 【월남이는 아무말도 못하고 고개만 수궁하였다.】 【아버지는 일체놈들의 공사판에 끌려나갔다가 처참하게도 몸을 다치였다.】</p>
<p>조선말사전(1960) 《조선말사전》 · 과학원출판사, 평양.</p>	<p>포함 【…김일성동지, 그이의 이름은 오늘 아프리카의 유전과 커피제배원에서도…】 강조 【아이도 참 똑똑도 하구나.】</p>
<p>조선말사전(1992) “조선말사전” · 연변인민출판사, 연길.</p>	<p>강조 또는 포함의 뜻을 나타낸다. 【우리는 자기 힘으로 자동차도 만들고 트랙트르도 생산할뿐아니라 우리에게 필요한 모든 기계들을 자체로 만들어낸다.】 포함과 강조의 뜻을 나타낸다. 【꼬마전사도 습격조에 넣어달라고 졸라댔다.】</p>
<p>조선문화어문법규범(1977) 《조선문화어문법규범》, 김일성종합대학출판사, 평양.</p>	<p>《다른것에 그것도 포함》 시킴 【네가 가면 나도 가겠다.】 (포함) 【야! 달도 밝구나!】 (강조)</p>
<p>조선어(1970) 《조선어》, 교육도서출판사, 평양.</p>	<p>포함 【인민들의 생활도 비할바없이 제고되었다.】 강조 【참 달도 밝구나!】</p>
<p>조선어문법(1970) 《조선어문법》 · 김일성종합대학출판사, 평양.</p>	<p>【토】 ① 다른 것에 더 포함됨을 나타내는 도음토. 【니도 천도 더 되는 사람들.】 ② ‘강조’의 뜻을 나타내는 도음토. 【백도 천도 더 되는 사람들.】 ③ ‘김토’의 한가지. 【달도 밝다.】 ④ ‘양보’의 뜻을 나타내는 도음토. 【돈이 없으면 쌀도 팽참소.】</p>
<p>조선어문법(1983) “조선어문법” · 연변인민출판사, 연길.</p>	<p>· 이것과 저것이 한가지임을 나타낸다. 【하늘도 바다도 다 푸르다.】</p>

<p>샘문학사, 서울.</p>	<p>• 강조와 느낌을 나타낸다. [말도 참 밝구나.]</p>
<p>현대조선말사전(1981) 《현대조선말사전》 (제 2 판), 과학, 백과사전출판사, 평양.</p>	<p>(토) 도움토의 하나. ① 그 어떤 대상을 그와 비슷한 계열의 대상에 포함시켜주는 뜻을 나타낸다. 【위대한 수령님을 위하여서는 청춘도 생명도 기꺼이 바치며 어떤 역경속에서도 위대한 수령님에 대한 충성의 한마음을 변함없이 간직하는 것은 주체형의 공산주의혁명가들에게 있어서 가장 중요한 품서의 하나이다.】 ② 강조 또는 감탄의 뜻을 나타낸다. [참, 신봉도 하지.]</p>

<p>문화어문법규범(1972) 《문화어문법규범》, 김일성종합대학출판사, 평양.</p> <p>백봉자(1999) “외국어로서의 한국어문법사전”, 연세대학교 출판부, 서울.</p> <p>사회과학원 언어연구소(1973) 《조선문화어사전》, 사회과학원출판사, 평양.</p> <p>서영섭(1981) “조선어실용문법”, 토동인민출판사, 심양.</p> <p>신기철, 신영철(1985) “새 우리말 큰사전”, 삼성출판사, 서울.</p> <p>연세한국어사전(1998) “연세한국어사전”, 연세대학교 출판부, 서울.</p>	<p>구획지어서 포함시키는 뜻을 가진다. 【우리 나라 반일민족해방운동의 탁월한 지도자이신 김형직선생님께서서는 1912년부터 1916년까지 만경대의 순화학교에서 교편을 잡으시면서 혁명사업을 하시었다.】</p> <p>【보】 시간이나 공간, 또는 동작이나 상태가 미치는 한계를 나타낸다. 1. 시간이나 공간을 나타내는 말과 결합하여 한계를 나타내는 경우. 【5시 반까지 기다리겠습니다.】 2. 현재의 상태나 정도 위에 더함을 나타내는 경우. 【이제는 그분이 거짓말까지 합니다.】 <붙임> 부사어, 조사, 어미와 어울리는 경우가 있다. 【우리를 하면서까지 도와주었으니 고마움을 알겠지요.】</p> <p>【토】 도움토의 하나. ① 함께 포함시킴을 나타낸다. 토 《도》, 《서건》과는 달리, 그리고 《조착》와는 비슷하게 그렇게 포함 되는 것을 좋아하지 않는 감정을 나타내는 때도 있다. 【바람이 부는데다 비까지 왔지만 우리는 계속 행군해서 예정한 시간안에 목적지에 가닿았다.】 ② 어떤 한계의 끝점을 나타낸다. 【우리는 험든줄 모르고 백두산꼭대기까지 올라갔다.】</p> <p>구획의 뜻(마지막이라는 뜻을 나타내면서 포함, 강조의 뜻을 나타낸다.) 【여기서 이화원까지 걸어갔다.】 【자리까지 내추었다.】</p> <p>【조】 ① 시간적으로나 공간적으로 일정하게 구획지어진 구간의 종결점을 나타내는 토. 【10시까지 마치고도록 해라.】 ② 그러한데 더하여서 나아감을 나타내는 토. 【기르침을 받고 육까지 하더니, 너까지 나를 괴롭히느냐?】</p> <p>【조】 I 부사격 조사. ① 어떠한 일반적인 주어인 범위의 한계를 나타냄. ‘~에 이르도록’의 뜻. 【그는 버스 값이 없어서 신당동에서 시청 앞까지 매일 걸어서 다녔다.】 ② 어떤 한계의 끝점을 나타냄. ‘~에 이르도록’의 뜻. 【나는 머리끝까지 화를 냈다.】 II 보조사. ① ‘그 위에 더하여서’, ‘그 밖에 더 첨가시키거나, 현재의 상태나 정도에서 더 나아가서’의 뜻을 나타냄. 【맛 좋고 값싼 갈치 자반, 맛도 좋고 값도 싸니, 더 말할 것이 있겠느냐?】 ② 어떤 높은 정도에 미침을 나타냄. ‘~이나’의 뜻. 【대학원까지 나왔다고 자처하는 사장 얼굴이 무색해진다.】 ③ 정상적인 정도를 지나침을 강조하여 나타냄. ‘심한 정도로’의 뜻. 【이렇게까지 날 사랑하는 줄은 몰랐다.】</p> <p>• ‘또한, 역시’를 나타낸다.(기대되는 일에도 쓰이는 점에서 ‘마져’와 비슷하지만 ‘마져’는 주로 그결과가 화자에게 불리한 일에 쓰임에 대해 ‘까지’는 그렇지 않은 일에 쓰인다.) 【그 각쟁이가 내 선물까지 사 왔다.】</p>
<p>이덕섭, 채완(1999) “국어문법론강의”, 学研社, 서울.</p>	

	<p>· ‘부산에서 서울까지’ 나 ‘3월에서 7월까지’ 등에 쓰이는 용법도 있다. 이러한 ‘까지’는 ‘도’로 대체될 수 없다.</p>
<p>이희승(1982) “국어대사전”, 민중서림, 서울.</p>	<p>[조] ① 동작이나 상태가 계속하여 미칠을 나타내는 특수 조사. 【할 수 있는 데까지 해 보겠다.】 ② 시간 또는 공간의 한도를 나타내는 특수 조사. 【정심 때까지.】 【서울에서 부산까지.】 ③ 「다시 그 위에 더하여」의 뜻. 【길이 바쁘게 차까지 고장났다.】</p>
<p>이희자, 이종희(2001) “한국어 학습용 어미·조사 사전” , 한국문화사, 서울.</p>	<p>[보] 1. (‘까지’ 가 붙은 말을) 함께 포함시킴을 나타낸다. ‘그 위에 더하여’, ‘그 밖에 더 첨가시키거나, 현재의 상태나 정도에서 더 나아감’의 뜻. 【추운 데다가 비까지 오다니.】 2. (높은 정도에 미치지거나 정상적인 정도를 지나치는 따위의) 극단적인 것을 나타낸다. ‘씩이나’의 뜻. 【요즘 세상에 뽕장까지 직접 만드세요?】 《도움말》 1. ‘마져’와 ‘조차’는 일반적으로 극단적인 상황을 나타낼 때 쓰인다. (‘까지 (도)’ 는 그런 제약이 없다.) 예 1 【그 학생은 (??)노래마저(?)노래조차/노래까지도] 잘 불렀다. 예 2 【그 학생은 (노래마저/노래조차/노래까지도) 못 불렀다. 2. 아래의 예 3에서 ‘까지’는 말하는이가 싫어하는 경우이거나 좋아하는 경우이거나 쓰일 수 있다. 그러나 ‘마저’나 ‘조차’를 쓰면 말하는이의 싫어하는 감정을 나타낸다. 예 3 【바람이 부는데 비까지 오는구나.】 예 4 【바람이 부는데 비마저(조차) 오는구나.】</p>
<p>임흥빈(1993) “취향스플이름 곁한 우리말 사전” , 아카데미하우스, 서울.</p>	<p>[조] 1. 체언 뒤에 쓰여 그것이 시간적으로나 공간적으로 어떤 행동이나 작용 또는 영향이 미치지거나 문체가 되는 범위에서 마지막에 있는 위치나 대상임을 나타낸다. 【당신은 어디까지 가십니까?】 2. 체언이나 체언에 조사가 연결된 형식 뒤에 쓰이거나 또는 ‘-기까지, -게까지, -고서까지, -아/어/여서까지, -면서까지’와 같은 구성에 쓰여 어떤 일이나 행동이나 상태가 기대하거나 예상한 범위를 넘어 앞에 있는 대상이나 행동이나 상태에 미치게 됨을 나타낸다. 【그 녀석이 아이까지 때렸다.】</p>
<p>조선말대사전(1992) 《조선말대사전》 , 사회과학출판사, 평양.</p>	<p>[토] 도움토의 하나. ① 어떤 한계의 끝점임을 나타낸다. 체언, 용언, 부사들에 붙는다. ② 포함시킴을 나타낸다. 【학부형이 아닌 사람들까지 온 동네가 떨쳐나서 명신학교로 꾸역꾸역 모여들었습니다.】 ③ 《그만 못한 어떤 연관된 사실도 맞갖잖은데 더구나 그보다 더한것조차 거기에 포함시키는 판제》를 나타낸다. 【바람이 부는데다가 비까지 쏟아졌다.】 ④ 강조의 뜻을 가진다. 【용행로진철을 가두녀성들까지 도와나섰다.】</p>
<p>조선말사전(1960) 《조선말사전》 , 과학원출판사, 평양.</p>	<p>[토] 도움토의 하나 ① 주로 시간 또는 공간적 위치와 관련된 명사, 대명사의 절대격, 여·위격 등에 붙어서 일정하게 구획지어진 구간의 종결점을 나타낸다. 【10시까지 꼭 오나라.】</p>

	<p>②주로 체인 또는 용인의 이러저러한 형태에 붙어서 같은 계열의 다른 대상, 행동, 상태, 표식 기타에 포함시킴을 나타낸다. [아이, 이불장, 찬장에다가 꿩상까지 사 왔어요.]</p> <p>[토] 도음토의 하나</p> <p>①포함의 뜻을 가진다. [너까지 그렇게 말하느냐?]</p> <p>②종결을 나타낸다. [확정까지 가다.]</p> <p>③격투 <-에, -에게, -에서> 등과 어울려쓰이거나 다른 형태뒤에서 쓰일 때 강조의 뜻을 나타낸다. [학교에서까지 도와준다.]</p>
<p>조선말사전 “조선말사전”, 연변인민출판사, 연길.</p>	<p>《조선문화어문법》(1979) 《조선문화어문법》, 과학, 백과사전출판사, 평양.</p>
<p>조선문화어문법규범(1977) 《조선문화어문법규범》, 김일성종합대학출판사, 평양.</p>	<p>《부리》와 《까지》는 보통 책을 부어서 쓰이는 일이 많으나 그것 하나만으로도 쓰인다. 시작과 마지막의 관계를 각각 나타내면서 일정한 범위, 한계를 구획지어준다. [1950년부터 1953년까지 3년간의 위대한 조국해방전쟁기간은 참으로 우리 인민에게 있어서 가장 준엄한 시련의 시기였다.]</p> <p>구획지어서 포함시키는 뜻을 가진다. [우리 나라 반일민족해방운동의 탁월한 지도자이신 김형직선생님께서는 1912년부터 1916년까지 만경대의 순화학교에서 교편을 잡으시면서 혁명사업을 하시었다.]</p>
<p>조선어(1970) 《조선어》, 교육도서출판사, 평양.</p>	<p>강조 또는 포함의 뜻을 나타낸다. [모내기에 인민군대들까지 도와나섰다.]</p>
<p>조선어문법(1970) 《조선어문법》, 김일성종합대학출판사, 평양.</p>	<p>기본적으로 풀, 마지막이라는 뜻을 나타내면서 포함, 강조의 뜻도 나타낸다. [어버이수령 김일성원수님께서는 밀영에 남은 우리 몇사람을 위하여 많은 식량과 약품까지 보내주셨다.]</p> <p>[우리는 평양에서 해산까지는 기차를 타고 가고 그다음부터는 걸어서 혁명전적지를 돌아보았다.]</p>
<p>조선어문법(1983) “조선어문법”, 연변인민출판사, 연길.</p>	<p>① 종결, 도합점을 나타낸다. 흔히 <-부터> 혹은 <-에서>와 같이 쓰인다. [그들은 아침 8시부터 저녁 4시까지 일한다.]</p> <p>② 포함의 뜻을 나타낸다. [어른들은 물론 어린이들까지 회의에 모여왔다.]</p>
<p>최운갑(1980) “조선어문법”, 료녕인민출판사, 심양.</p>	<p>①한계의 종결점을 나타낸다. 이때 흔히 <부터...까지>, <에서...까지>의 형식으로 사용된다. [아침 7시부터 학교에 와야 한다.]</p> <p>②포함의 뜻 즉 <그것을 포함하여>의 뜻으로 사용된다. [유치원어린이들까지 선전활동에 참가하였다.]</p>
<p>한글학회(1992) “우리말 큰사전”, 어문각, 서울.</p>	<p>[토] 도음토제의 한가지.</p> <p>① 시간으로나 공간으로 미치는 (이르는) 점을 나타낸다. 비롯함과 관계하여 쓰인다. [언제까지 있을 터이나?] (ㄱ) 어떤 기준이나 정도에 미치지 못한 정도를 가리키는, ‘안으로’의 뜻으로 잘못 쓰이기도 한다. 비롯함과 관계하지 않고 쓰는 경우이다. [오전 9시까지 (안으로→) 등교하여야.]</p> <p>② 어찌말 따위에 붙어 그 뜻을 강조하기도 한다. [웃도록까지 일한다.]</p> <p>③그 위에 더하여 또는 그 밖에 더 포함시킴을 나타낸다. [비 내리고 바람까지 분다.]</p>
<p>허용(1983) “국어학”, 샘문화사, 서울.</p>	<p>미치는 점을 나타낸다. [서울서 부산까지는 철리 길이다.] [산에까지 붙어 번졌다.]</p>

<p>현대조선말사전(1981) 《현대조선말사전》 (제2판), 과학, 백과사전출판사, 평양.</p>	<p>[토] 도음토의 하나 ① 어떤 한계의 끝점임을 나타낸다. ② 함께 포함시키는 뜻을 나타낸다. 이때는 토 《조차》와 비슷하게 쓰인다. 【분보라가 치는테다가 날까지 어두웠으므로 사격하기에 불리하였으나 전사들은 백발백중의 사격솜씨를 보여주었다.】 ③ 격토 《에, 에게, 에서》 등과 어울려쓰이거나 다른 형태뒤에서 쓰일 때 강조의 의미를 나타낸다. 【가정에서서까지 이렇게 짜고들어 도와주니 우리 일이 잘 안될리 있습니까!】</p>
--	--

	<p>-마져</p> <p>I (副) 残り無くすべて、ことごとく、全部、残さず最後の一つまで、みな: 【마져 팔아치웠다.】【이것도 마져 잡수시오.】</p> <p>II (助) ……までも (까지도), ……まですべて (까지 모두), ……さえ、……すら: 【신마져 잃어버렸다.】</p> <p>(尾) ……まで (望ましくないものを含む) 【날씨까지 추운데 비마져 왔어요.】</p>	<p>大阪外国語大学 朝鮮語研究室 (1986) 『朝鮮語大辞典』、角川書店、東京。</p> <p>菅野裕臣他 (1988) 『コスモス朝和辞典』、白水社、東京。</p> <p>油谷幸利他 (1993) 『朝鮮語辞典』 (小学館、金星出版社共同編集)、小学館、東京。</p> <p>국립국어연구원 (1999) “표준어국어대사전”, 부산동아, 서울.</p>
	<p>마져 I (副) ……残さず皆、全部。【내 말마져 듣고 말을 해.】</p> <p>마져 2 (助) 望ましくないものの追加を示す。; ……までも、……さえ 【비마져 오는구나.】</p> <p>I (부) 남김없이 모두. 【침에 물을 마져 따르다.】</p> <p>II (조) (체언 뒤에 붙어) 이미 어떤 것이 포함되고 그 위에 더함의 뜻을 나타내는 보조사. 하나 남은 마져막임을 나타낸다. 【너마져 나를 떠나지구나.】</p>	<p>국어대사전(1991) “국어대사전”, 금성출판사, 서울.</p> <p>김석득 (1994) “우리말 형태론”, 탐출판사, 서울.</p>
	<p>I (부) 남김없이 죄다. 모두. 【이 일도 마져 해치워라.】</p> <p>II (조) 앞에 오는 말이 하나 남은 마져막임을 나타내는 보조사. ‘조차’와 비슷한 뜻을 가지거나 예상했던 일에도 쓰이는 점이 다름. 【너마져 나를 배신하구나.】</p> <p>I ‘하물며, 더더구나, 더 보쌈’ 【(정국이 불안한데) 민심마저 흉흉하다.】 (마져막성을 내포)</p> <p>2 마져막, 남김없이 【돈 풀마져 떨어졌다.】 (마져막, 남김없는 극한성을 더보쌈)</p>	<p>김승곤 (1996) “현대 나라 말본”, 박이정출판사, 서울.</p>
	<p>1) 어떤 사물을 극단적인 예상 밖의 경우로 하여 강조적으로 예시한다. 그에 의하여 다른 일반적인 경우를 암시한다. 【90세를 먹은 오들날마져도 조곰도 쉬지 않고 책을 읽는다.】</p> <p>2) 어떤 하나의 조건이 있을 때 그것으로써 충분한 결과를 발생시킬 것이 기대되면 「마져~하면」의 형식으로 그 조건을 나타낸다. 【기구마져 가지고 있으면 어린이가 있는 가정도 가능하다.】</p> <p>3) 첨가의 뜻을 나타낸다. 【눈이 오면서 비마져 온다.】</p> <p>4) 「최후 마져막」, 즉 「하나도 남김없이」의 뜻을 나타낸다. 【바가지 조각마져 다 가져 갔다.】</p> <p>5) 「마져」는 다음과 같은 복합토씨를 만든다. 복합토씨에는 「마져가, 마져를, 에서마져, 제서마져, 깨우서마져, 마져야, 예제마져, 마져도」 등이 있다.</p>	<p>김용구 (1989) 《조선어문법》, 사회과학출판사, 평양.</p> <p>김일성종합대학어문학연구소 조선학연구소 (1964) 《조선어문법》, 평양고등교육도서관출판사, 평양.</p> <p>문화어문법규범 (1972) 《문화어문법규범》, 김일성종합대학출판사, 평양.</p>
	<p>포함(양보의 판계도 나타냄) 【물마져, 사람마져】</p> <p>극단적으로 불리하게 된 환저의 강조. 【김 동무마져 모르면 누가 알겠소.】</p> <p>포함(이야기하는 사람이 바라지 않는것까지 포함시킨다는 점에서 《도》와 다르다.) 【해방전 우리 인민들은 밥은 고사하고 죽마져 제대로 못먹고 굶주리면서도 오직 수령님을 등대로 우러러 보면서 곳곳이 살아있던것이다.】</p>	<p>백봉자 (1999) “외국어로서의 한국어문법사전”, 연세대학교 출판부, 서울.</p>
	<p>【보】 ‘앞에 어떤 사실이 있는데 거기에 더 보태서, 혹은 마져막 나는 이것까지도’의 뜻을 나타낸다. 서술어는 보통 ‘부정적인 것, 바람직하지 않은 것’을 나타내는 것이 대부분이다.</p>	

	<p>【너마져 나를 의심하니?】 <틀림> '-마져' 가 더 보편. 마지막의 극한성을 나타내고 '-조차' 는 잇달아 더 보편을 나타내는데, 그 뜻의 차이가 있음에도 불구하고 이들은 서로 대치할 수 있다. (토) 도움토의 하나. 결국은 그것까지도 포함됨을 나타낸다. 【바람이 부는데다 비마저 억수로 쏟아졌다.】</p>
사회과학원 언어연구소(1973) 《조선문화어사전》, 사회과학원출판사, 평양.	<p>이야기하려는 사람이 기대하지 않는것까지도 결국 포함됨을 나타낸다. (좋아하지 않는 감정적표현을 동반하면서 《마지막》으로 포함됨을 나타낸다.) 【바람이 세차게 부는데다 비마저 억수로 퍼부었다.】 마저 1 (부) 마지막까지 다. 남김없이 죄다. [이 것도 마저 갖고 가십시오.] 마저 2 (조) 다른 것에 어떤 것까지 포함시켜서 말할 때 쓰이는 조사 '까지도' '까지 모두' '조차' '의 뜻으로, 이야기하는 사람이 별로 원하지 않는 것이라는 속내까지 내포함. 【너마져 그런 말을 하니?】</p>
서명집(1981) “조선어실용문법” , 로동인민출판사, 심양. 신기철, 신영철(1985) “새 우리말 큰사전”, 삼성출판사, 서울.	<p>(조) ① ‘어떠한 사실에 더하거나 그러한 사실에서 더 나아가서’의 뜻을 나타냄. 【지대가 높아져 가면서 추위도 혹독한 데다가 바람마저 매섭게 휘몰아치고 있었다.】 ② ‘최후의 것까지 모두’의 뜻을 나타냄. 【내 인생에서 처음으로 보람을 찾아 온 자식이었는데 너마져 나를 버리고 아빤 결으로 간단 말이나!】 ③ ‘그러리라고 전혀 기대하지도 않았던 것까지도’의 뜻을 나타냄. 【임시의 경우 일선 교사들마저 대학의 출제 흐름을 모르는 상태다.】</p>
연세한국어사전(1998) “연세한국어사전”, 연세대학교 출판부, 서울. 이익섭, 채완(1999) “국어문법론강의”, 学研社, 서울.	<p>‘하나 남은 마지막’을 나타낸다. 기대되는 일에도 쓰이는 일이 있는 점이 ‘조차’와 다르다 【올 가을에는 막내 (마저 *조차) 시집을 보내야겠습니다.】</p>
이희승(1982) “국어대사전”, 민중서림, 서울.	<p>마저 1 (부) 전부,남음이 없이 모두. 【이것도 마저 참수시오.】 마저 2 (조) 「까지도」·「까지 모두」의 뜻을 나타내는 특수 조사. 【이 책마저 가져라.】</p>
이희자, 이종희(2001) “한국어 학습용 어미·조사 사전”, 한국문화사, 서울.	<p>(보) 1. ‘어떠한 사실에 더 첨가하여’, ‘그리한 사실에서 더 나아가서’의 뜻. 【추운 데다가 바람마저 세차게 불었다.】 2. ‘최후의 것까지 모두’의 뜻. 하나 남은 마지막임을 나타낸다. 【짐마져 남의 손에 넘어갔다.】</p>
임홍빈(1993) “닉앙스틀어를 결합 우리말 사전”, 아카데미하우스, 서울.	<p>어떤 일이나 생애에 영향을 받는 사람의 측면에서 어떤 일이 예상한 범위를 넘어 오는 대상에 미침을 나타낸다. 다른 종류의 사물에는 연장될 수 없다.</p>
조선말대사전(1992) 《조선말대사전》, 사회과학출판사, 평양.	<p>(토) 도움토의 하나. 주로 체언에 붙어서 탈감지 않은 일을 양보하여 포함시키는 관계를 나타낸다. 【바람이 세차게 부는데다가 비마저 쏟아졌다.】</p>
조선말사전(1960) 《조선말사전》	<p>(토)주로 명사, 대명사의 절대격에 붙는 도움토. 다른 것에 어떤 것까지도 포함시켜서 말할 때</p>

· 과학원출판사, 평양.	쓰인다. 그러나 《도》와는 달리 그리고 《-조차》, 《-까지》와는 비슷하게 이야기하는 사람이 별로 원하지 않는 것을 포함시킨다는 정서적 왜채를 동반한다. [바람이 심한데 비마져 오는군.]
조선말사전(1992) “조선말사전” · 연변인민출판사, 연길.	(토) 도움토의 하나. 결국은 그것까지 포함됨을 나타낸다. [눈이 오는데 바람마저 부는군.]
조선문화어문법(1979) 《조선문화어문법》, 과학, 백과사전출판사, 평양.	《도》와 마찬가지로 그가 붙은 단어를 그와 비슷한 제철의 대상, 현상들에 포함시켜준다. 그러나 이것은 이야기하는 사람이 싫어하거나 바라지 않는것까지 포함시킬 때에 쓰인다.
조선문화어문법규범(1977) 《조선문화어문법규범》, · 김일성종합대학출판사, 평양.	포함(이야기하는 사람이 바라지 않는것까지 포함시킨다는 점에서 《도》와 다르다.) 【해방전 우리 인민들은 밥은 고사하고 죽마지 제대로 못먹고 굶주리면서도 오직 수령님을 등대로 우러러 보면서 뜻이 살아왔던것이다.】
조선어(1970) 《조선어》, · 교육도서출판사, 평양.	강조 또는 포함의 뜻을 나타낸다. [지난날 지주놈들은 소작인들의 종자날알마저 빼앗아갔다.]
조선어문법(1970) 《조선어문법》 · 김일성종합대학출판사, 평양.	포함의 뜻을 나타내며 그것이 아주 불리한 조건임을 보여준다. 【일본놈들은 나중에는 우리 말과 글마저 없애버리려고 하였다.】
조선어문법(1983) “조선어문법” · 연변인민출판사, 연길.	《마지막으로 그것까지 다...》의 뜻으로 극도에 이른 불리한 조건을 강조하는 뜻이 포함되어있다. 【그는 지주의 빛에 물려 나중에는 집마저 빼앗겼었다.】
최윤갑(1980) “조선어문법”, · 로녕인민출판사, 심양.	포함의 뜻을 나타내나 《마지막으로 그것까지》(바라지 않는 감정에서)의 뜻으로 쓰인다. 【투비놈들은 한퇴 남은 쌀마저 다 빼앗아갔다.】
한글학회(1992) “우리말 큰사전” · 어문각, 서울.	[토] ‘어떤 것까지도 포함시켜’의 뜻을 나타내는 도움토의 한가지. 【건기마저 힘들다.】
허용(1983) “국어학”, · 샘문학사, 서울.	덧보탬이나 마지막을 나타낸다. [노도 밭도, 그리고 집마저도 물에 잠겼다.]
현대조선말사전(1981) 《현대조선말사전》 (제 2 판), 과학, 백과사전출판사, 평양.	[토] 도움토의 하나. 결국은 그것까지도 포함됨을 나타낸다. [바람이 부는데다 비마저 억수로 쏟아졌다.]

	-조사	
大阪外国語大学 朝鮮語研究室 (1986) 『朝鮮語大辞典』、角川書店、東京。	【助】 ……さえ、……も、……までも : 【니조사 가려느냐?】 【문보가 어디인지조차 알지 못한다.】 【읽어조차 안 보고 무슨 토론을 하겠소?】	
菅野裕臣他 (1988) 『コスモス朝和辞典』、 白水社、東京。	【尾】 ……さえ、……もが、……までも 【비가 오는 데다가 바람조차 불었다.】	
湘谷幸利他 (1993) 『朝鮮語辞典』 (小学館、金星出版社共同編集)、 小学館、東京。	【助】 ……さえ、……も、……まで (も) 【너마저 반대나?】	
국립국어연구원 (1999) “표준어국어대사전” 、두산동아, 서울.	【조】 (체언 뒤에 붙어) 이미 어떤 것이 포함되고 그 위에 더함의 뜻을 나타내는 보조사. 일반적으로 예상하기 어려운 극단적 경우까지 양보하여 포함함을 나타낸다. 【그는 편지는커녕 제 이름조차 못 쓴다.】 【니조차 가지 않겠다는 거냐?】	
국어대사전 (1991) “국어대사전” 、금성출판사, 서울.	【조】 ‘도’, ‘역시’의 뜻으로 극단적 경우까지 양보하여 포함시킴을 나타내는 보조사. 【바로 앞을 분간하기조차 어려우리만큼 안개가 짙게 끼었다.】	
김석득 (1994) “우리말 형태론” 、탑출판사, 서울.	‘…뿐만 아니라’, ‘…는 물론하고’, ‘(까지)의 뜻을 더 좇아 잇달아 보탬을 나타낸다.’ 【그를 만나기조차 싫어한다.】	
김송곤 (1996) “현대 나라 말본” 、박이정출판사, 서울.	1) 어떤 사물을 극단적인 예상 밖의 경우로 강조적으로 제시한다. 그것에 의하여 다른 일반적인 경우를 암시한다. 【니조차 몰랐는데 다른 이야 알 리가 없지.】 2) 움직여 끝 뒤에 와서 강조의 뜻을 나타낸다. 【그는 굶어면서조차 공부만을 일삼는다.】 3) 「아주 완전히~하다」는 뜻을 나타낸다. 【나는 그를 이름조차 모른다.】 4) 「최후 마지막 것까지」의 뜻을 나타낸다. 【왜놈들이 성은 물론 이름조차 빼앗아 갔다.】 5) 확장 또는 축소의 뜻을 나타낸다. 【아름답기(까지)조차 하다.】	
김용구 (1989) 《조선어문법》, 사회과학출판사, 평양.	포함(양보)의 관계도 나타냄) 【팔조차, 사담조차】	
김일성종합대학어문학연구소 조선학연구소 (1964) 《조선어문법》, 평양고등교육도서관출판사, 평양.	극단적으로 불리하게 될 환경의 강조. 【넌 이렇게 쉬운 것조차 모르니 어쩔테냐?】	
문화어문법규범 (1972) 《문화어문법규범》 、김일성종합대학출판사, 평양.	포함(이야기하는 사람이 바라지 않는 것까지 포함시킨다는 점에서 《도》와 다르다.) 【마음이 부는데다 비조차 역수로 퍼부었으나 돌격대원들은 일손을 계속 다그쳐나가기만 하였다.】	
백봉자 (1999) “의국어로서의 한국어문법사전” 、연세대학교 출판부, 서울.	【보】 앞에서 거론하지 않은 사실은 물론이고 이것까지 더해 줌을 나타낸다. ‘~까지도’의 뜻이다. 【너무 바빠서 점심 먹을 시간조차 없어요.】 <붙임 > 1. 다른 조사나 연결어미, 혹은 명사형 전성어미 ‘-기’와 결합하여 쓰인다. 【부모님에게조차 성적표를 안 보였습니다.】 2. ‘-조차’ 앞에는 ‘-커녕’이 쓰여서 ‘-는/은커녕 -조차’의 형태로 많이 쓰인다. 【친구는커녕 아내조차 그가 어디에 있는지 모른다.】	

<p>사회과학원 언어연구소(1973) 《조선문화어사전》 · 사회과학원출판사, 평양. 서명섭(1981) “조선어실용문법” · 토종인민출판사, 심양.</p>	<p>(토) 도움토의 하나. 함께 포함시킴을 나타낸다. 그러나 토 《도》, 《서견》과는 달리, 그리고 《까지》와는 비슷이 그렇게 포함되는것을 좋아하지 않는 감정을 나타내는 때도 있다. 이야기하려는 사람이 기대하지 않는것까지도 결국 포함됨을 나타낸다. (좋아하지 않는 감정적표현을 동반하면서 《다른것도 그런데 따라서》 포함됨을 나타낸다. [너조차 가려느냐?])</p>
<p>신기철, 신영철(1986) “새 우리말 큰사전”, 삼성출판사, 서울.</p>	<p>(조) 어떤 사실이 그와 비슷한 계열의 사실들에 의외로 또는 당치않게 포함됨을 나타내는 말. [너조차 나를 슬프게 하는구나.]</p>
<p>연세한국어사전(1998) “연세한국어사전” · 연세대학교 출판부, 서울.</p>	<p>(조) ① (가장 쉽고 생각하고 생각되는 것을 나타내는 말에 붙어) (ㄱ) ‘~도, ~마저도, ~까지도 (할/될 수 없어)’ 의 뜻을 나타냄. [아버지는 말할 것도 없고 어머니와 다른 사람들을 구별할 줄조차 모릅니다.] (ㄴ) ‘~도, ~마저, ~까지 (할/될 수 있어)’ 의 뜻을 나타냄. [자칭 기술자라는 임 세조차 겨울이면 연탄 배달로 삼을 보는 연탄 장수가 주임이었다.] ② 어떠한 사실이 그와 비슷한 어떠한 사실에 더 보태어짐을 나타냄. [하늘은 구름 한 점 없었고 바람조차 자는 청명한 겨울을 날쌌었다.] ③ 극단의 상황을 부정함으로써 부정함을 강조함. [눈이 부서서 눈조차 제대로 뜰 수 없었다.] ‘또한, 역시’ 를 나타낸다. (화자가 기대하지 못한 일에 쓰인다. 제약이있다. ‘조차’ 는 명령문 및 청문문에는 잘 못 쓴다. 명령이나 청유는 이미 기대를 하고 말하는 문장이기 때문이다.) 【우동생인 철호조차 F학점을 받았다.】</p>
<p>이익섭, 채완(1999) “국어문법론강의”, 学研社, 서울. 이희승(1982) “국어대사전”, 민중서림, 서울.</p>	<p>(조) 「도, 따라서」의 뜻으로 위의 말을 강조할 때 쓰는 특수 조사. [너조차 나를 원망하느냐.]</p>
<p>이희자, 이종희(2001) “한국어 학습용 어미·조사 사전” · 한국문화사, 서울.</p>	<p>(보) 1. (부정의 뜻을 나타내는 문장에 쓰이어, 가장 쉽다고 생각되는 것을 나타내는 말에 붙어) ‘~도, ~마저도 (할/될 수 없어)’ 의 뜻. [환자들은 물조차 마시지 못하고 있었다.] 2. (긍정의 뜻을 나타내는 문자에 쓰이어) ‘~도, ~마저, ~까지(할/될 수 있어)’ 의 뜻. [말을 기어가는 한 마리의 벌레조차 모두 칭다웠다.] 3. 어떠한 사실이 그와 비슷한 어떠한 사실에 더 보태어짐을 나타낸다. [하늘은 구름 한 점 없었고 바람조차 자는 청명한 겨울 날쌌었다.] 4. 극단의 상황을 부정함으로써 부정함을 강조한다. [눈이 부서서 눈조차 제대로 뜰 수 없었다.] 《도움말》 ‘까지’와는 달리, ‘조차’의 경우에는 말하는이의 심리적 태도가 나타난다. 예 1 [그는 국어조차 못 한다.] (말하는이가 국어가 가장 쉬운 것이라 생각하는 경우에 씀) 예 2 [그는 국어까지 못 한다.] (말하는이가 어떠한 것을 전체하거나 하지 않음) 어떤 일이나 사태에 영향을 미치는 사람의 측면에서 어떤 일이 예상한 범위를 넘어 오는 대상에 미침을 나타낸다.</p>
<p>임홍빈(1993) “뉴앙스틀이를 곁한 우리말 사전” · 아카데미하우스, 서울.</p>	<p>어떤 일이나 사태에 영향을 미치는 사람의 측면에서 어떤 일이 예상한 범위를 넘어 오는 대상에 미침을 나타낸다.</p>

조신말대사전(1992) 《조신말대사전》, 사회과학출판사, 평양.	<p>【토】 도움토의 하나. 체언과 용언의 일부 이음형태나 꾸밈형 및 부사에까지 붙어서 《그만 못한 어떤 련관된 사실도 맛감찮은데 더 나아가서 그보다 더한것까지 거기에 포함시키는》 관계를 나타낸다.</p> <p>【바람이 부는데다가 비조차 쏟아졌다.】</p> <p>【토】어떤 사실이 그와 유사한 제멸의 사실들에 포함됨을 나타내는 도움토. 그러나 도움토 《도, 서진》들과는 달라서 이야기하는 사람이 그 포함됨에 대하여 불한성의 입장에 선 경우에 쓰인다.</p> <p>【사람은 커녕 편지조차 오지 않는구나.】</p> <p>【토】 도움토의 하나. 포함의 뜻을 가진다. 【소식조차 없구나.】</p>
조신문화어문법(1979) 《조선말사전》, 연변인민출판사, 연길.	<p>《도》와 마찬가지로 그가 붙은 단어를 그와 비슷한 제멸의 대상, 현상들에 포함시켜준다. 그러나 이것은 이야기하는 사람이 싫어하거나 바라지 않는것까지 포함시킬 때에 쓰인다.</p> <p>【사실 그의 명실한 코마루며 항상 웃음을 띠고있는 좀 작은편인 눈 그리고 꼭 다물려있는 입을 뜰어보면 성이 났을 때조차 인정이 흐르는 얼굴이었다.】</p> <p>포함(이야기하는 사람이 바라지 않는것까지 포함시킨다는 점에서 《도》와 다르다.)</p> <p>【바람이 부는데다 비조차 억수로 퍼부었으나 물격대원들은 일손을 계속 다그쳐나가기만 하였다.】</p>
조신문화어문법규범(1977) 《조선문화어문법규범》, 김일성종합대학출판사, 평양.	<p>간조 또는 포함의 뜻을 나타낸다.</p>
조신어문법(1970) 《조선어문법》, 김일성종합대학출판사, 평양.	<p>포함의 뜻을 나타내며 그것이 아주 불리한 조건임을 보여준다.</p> <p>【제 이름조차 쓸줄 모르던 나는 유격대에 입대하여 어버이수령 김일성원수님의 보살핌속에서 훌륭한 정치공작원으로 자라났다.】</p> <p>《다른것도 그런데 그우에 또》의 뜻으로 흔히 마음에 내키지 않는다는 감정을 포함.</p> <p>【바람이 부는데다가 비조차 퍼부어 걸기가 매우 힘들었다.】</p>
조신어문법(1983) “조선어문법” , 연변인민출판사, 연길.	<p>포함의 뜻을 나타내나 《다른것도 그런데 그우에 또》(불리한 환경을 강조)의 뜻으로 쓰인다.</p> <p>【니조차 반대나? (다른 사람이 반대하는데다가)】</p> <p>【토】 ①무엇에 포함됨을 나타내는 도움토. 【비가 오는데 바람조차 부는구나.】 ②강조함을 나타내는 도움토. 【어린애들조차 아는 일을 왜 모르겠느냐?】</p>
최윤갑(1980) “조선어문법” , 료녕인민출판사, 심양.	<p>덧셈을 나타낸다.</p>
한글학회(1992) “우리말 큰사전” , 어문각, 서울.	<p>【니조차 따라가니?】</p>
허용(1983) “국어학” , 샘문화사, 서울.	
현대조선말사전(1981) 《현대조선말사전》	<p>【토】 도움토의 하나. 극단한 경우까지 양보하여 포함시킴을 나타낸다.</p>

(제 2 판), 과학, 백과사전출판사, 평양.

[사람은커녕 편지조차 오지 않는다.]

현대한국어의 특수조사 ‘-도’ 에 대하여

홍가이도대학교대학원 박사과정

임명수

현대한국어에는 일반적으로 특수조사라고 불리우는 조사가 있는데 본고는 이 가운데 ‘-도’ 에 대하여 논의하고자 한다.

‘-도’ 는 여러가지 품사와 결합하여 다양한 의미를 나타낸다.

명사와 결합한 경우 ‘첨가’ 의 의미와 ‘의외’ 의 의미를 나타낸다. 후자의 경우, ‘-까지’, ‘-마저’, ‘-조차’ 와 같은 특수조사들과 대치할 수 있는 경우가 있으며, 거기서 ‘-도’ 는 ‘첨가’ 의 의미를 기본으로 하면서 의외성을 나타낸다.

수사에서는 자연수에서 가장 작은 수인 ‘1’ 보다 큰 수사와 결합할 때 긍정문, 의문문에서 어떤 기준점을 넘는다는 의미를 가진 동사나 부사와 함께 쓰이며 그 수량이 많다는 것을 강조한다. 그러나 부정문에서는 그런 공기계약 없이 쓰이며, 개수적인 의미를 나타낸다.

또한 부정문에서 자연수 ‘1’ 과 같은 수사나 양이 적다는 의미를 가진 부사, 그리고 의문사나 부정사와 결합하여 전체부정을 나타낸다.

또 부사들중에는 ‘-도’ 와 결합해서 그 정도를 강조하기보다 화자의 적극적인 심리적태도를 보여주는 것도 있다.

‘-도’ 는 접속형어미와 결합하여 술어와 ‘A 에도 불구하고 B’ , ‘A 그리고 B’ 란 두 가지 관계를 이룬다. 전자의 경우 특수조사의 특징인 임의성(任意性)이란 관점과 그 의미에서 볼 때 특수조사라고 인정할 수 없다. 본고에서는 후자의 경우를 특수조사로 인정할 것이다.